

Title	東京歯科大学研究年報 : 平成19年度
Journal	東京歯科大学研究年報, (): -
URL	http://hdl.handle.net/10130/1852
Right	

1. 口腔健康臨床科学講座

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

教 授	柿澤 卓 (口腔外科学分野)	非進展口腔癌に対する予後推測因子 (A98-0470-8)
	榎石 武美 (歯科保存学分野)	抜髄および感染根管治療後の根管充填と再治療に関する臨床統計
准 教 授	安達 康 (歯科補綴学分野)	タレット機構を装備するサベイヤ-の活用性についての報告 (A06-0792-2)
	堀田 宏巳 (歯科補綴学分野)	骨結合インプラントの基礎的臨床的研究 (A83-0530-1)
	高野 正行 (口腔外科学分野)	粘膜染色による口腔粘膜疾患の診断に関する研究 (A98-0470-13)
	末石 研二 (歯科矯正学分野)	先天性疾患の歯科矯正治療に関する研究 (A05-0792-11)
	大多和由美 (小児歯科学分野)	外傷幼若永久歯における電氣的閾値の経時的変化 (A87-0450-4)
	古澤 成博 (総合歯科学分野)	難治性根尖性歯周炎の研究
講 師	福田 謙一 (歯科麻酔学分野)	鎮痛関連物質受容体の遺伝子多型が下顎形成術後の疼痛治療に及ぼす影響に関する研究 (A04-0500-10)
	松井 隆 (口腔外科学分野)	静脈内投与及び経口投与アデノシン三リン酸の鎮痛作用 歯根端切除における根端閉鎖材料の違いによる治癒経過に関する研究
	森山 貴史 (歯科保存学分野)	新しい歯周治療技術の開発に関する研究
	関根 秀志 (口腔インプラント学分野)	歯牙への被圧状態に関わる中枢の活動 骨結合インプラントの基礎的臨床的研究
	望月 清志 (小児歯科学分野)	永久歯萌出遅延歯の処置
	久保 周平 (小児歯科学分野)	乳歯歯根吸収のレドックス制御機構
	辻野啓一郎 (小児歯科学分野)	機械的根管拡大装置の乳歯根管に対する応用 (A05-0792-9)
	宮崎 晴代 (歯科矯正学分野)	不成咬合と歯牙喪失の関係について (A05-0792-12)
	齋藤 淳 (歯科保存学分野)	歯周病原性細菌と宿主の相互作用の研究
	助 教	山 満 (歯科放射線学分野)
高崎 義人 (口腔外科学分野)		歯槽神経損傷に対する治癒効果判定に関する臨床的検討
横山 葉子 (口腔外科学分野)		歯根端切除の治療成績に関する臨床学的検討
三宅 菜穂子 (歯科補綴学分野)		補綴材料への口腔内細菌の吸着に関する実験的研究 (A05-0792-5)
金井 由起 (歯科補綴学分野)		歯冠色修復材料の表面処理方法と接着性に関する研究 (A99-0520-1)

	笠原 正貴 (歯科麻酔学分野)	星状神経節ブロック施行時の合併症に関する臨床的検討
	瀬田 修一 (口腔外科学分野)	Immediate Loading と Early Loading に関する研究
	田口 達夫 (口腔インプラント学分野)	インプラント埋入時の生体反応に関する臨床的研究
	林 正樹 (歯科矯正学分野)	東京歯科大学水道橋病院矯正歯科における予定 外来院の実態調査 (A06-0792-3)
	海老原 環 (歯科矯正学分野)	顎変形症患者の臨床的統計調査
	細川 壮平 (総合歯科学分野)	睡眠時無呼吸症候群の検討
	高久勇一朗 (口腔外科学分野)	初期口腔癌に関する臨床的研究
	小貫 瑞穂 (総合歯科学分野)	咬合機能回復についての検討
	齋田菜緒子 (歯科麻酔学分野)	リラックス歯科治療外来における長時間外来全身麻酔 の臨床的検討
	山上 美樹 (歯科補綴学分野)	インプラントの治療の臨床評価
	半田麻里子 (歯科麻酔学分野)	フェンタニル急速静脈内投与による咳の発現に関する 検討
	今井 崇之 (口腔外科学分野)	三次元インクジェットプリンターによる実物大石膏モデ ルの口腔外科手術への臨床応用
	小坂 竜也 (歯科矯正学分野)	CT 情報を利用した顎顔面形態解析プログラムの開発
レジデント	松本 信哉 (歯科保存学分野)	保存治療の予後判定に関する臨床的研究
	水戸部明子 (歯科保存学分野)	保存治療の予後判定に関する臨床的研究
	井田 篤 (歯科保存学分野)	保存治療の予後判定に関する臨床的研究
	大貫 智宏 (歯科補綴学分野)	タレット機構を装備するサバイヤ-の活用性についての 報告 (A06-0792-2)
	栗田 麗 (歯科補綴学分野)	タレット機構を装備するサバイヤ-の活用性についての 報告 (A06-0792-2)
	山本 るみ (歯科補綴学分野)	タレット機構を装備するサバイヤ-の活用性についての 報告 (A06-0792-2)
	永島絵梨奈 (歯科補綴学分野)	タレット機構を装備するサバイヤ-の活用性についての 報告 (A06-0792-2)
	神崎 英行 (歯科補綴学分野)	タレット機構を装備するサバイヤ-の活用性についての 報告 (A06-0792-2)
	小林麻衣子 (歯科補綴学分野)	タレット機構を装備するサバイヤ-の活用性についての 報告 (A06-0792-2)
	古屋 克典 (歯科補綴学分野)	タレット機構を装備するサバイヤ-の活用性についての 報告 (A06-0792-2)
	藤田 佳子 (口腔外科学分野)	顎変形症患者におけるオトガイ神経知覚鈍麻に関する 研究
	関根亜理紗 (口腔外科学分野)	顎矯正手術のクリニカルパスに関する研究
	渡辺 玲子 (口腔外科学分野)	顎変形症術後の後戻り症例に関する研究
	伊藤 哲平 (口腔外科学分野)	インプラント埋入を目的とした自家骨移植についての 臨床的検討

	山村 哲生 (口腔外科学分野)	舌神経麻痺に関する研究
	小林 弥生 (口腔外科学分野)	実物大臓器立体石膏モデルの顎骨腫瘍に対する臨床応用の有用性
	古澤 圭 (口腔外科学分野)	水道橋病院口腔外科における口腔良性腫瘍の臨床統計
	羽鳥 友子 (口腔外科学分野)	進展型嚢胞から発生した癌に関する検討
	竹井 邦男 (歯科矯正学分野)	Sotos 症候群の矯正治療に関する研究
	井上 恵実 (歯科矯正学分野)	インプラント矯正治療に関する臨床的統計調査
	篠 珠美 (歯科矯正学分野)	CASMAS を用いた骨年齢評価
	川端 薫子 (歯科矯正学分野)	矯正治療中の痛みに対する神経開口部へのレーザー照射について
	堀江由規子 (歯科矯正学分野)	二段階口蓋形成施行者のセファロ分析値の比較
	藤本かな子 (歯科矯正学分野)	骨格性下顎前突症患者における下顎骨に対する下顎前歯部の傾斜角度の分布
	金子かおり (小児歯科学分野)	障害児、低年齢児の歯科治療における対策
	宮尾真理子 (歯科麻酔学分野)	下顎前突症患者における術前不安の検討
	朝波 志穂 (歯科麻酔学分野)	顎変形症手術の出血に影響を及ぼす因子の検討
	松崎 文頼 (口腔インプラント学分野)	インプラント即時負荷術式に対する臨床的評価
	大迫 美穂 (総合歯科学分野)	X線写真の画像評価についての検討
	関根珠里亜 (総合歯科学分野)	三叉神経痛と根尖性歯周炎の関連について
	根本 詩子 (総合歯科学分野)	抜髄後疼痛についての臨床的検討
	早川 裕記 (総合歯科学分野)	唾液検査と歯周病原菌についての検討
	押田 浩平 (総合歯科学分野)	歯周治療における口腔関連 QOL のアセスメント
	富澤 尚弘 (総合歯科学分野)	歯科治療時における血圧変動について
	加藤 友章 (総合歯科学分野)	侵襲性歯周炎における抗生剤治療効果の臨床評価
	小林 真人 (総合歯科学分野)	CR インレーの物性についての臨床的評価
	清水 北斗 (総合歯科学分野)	抜歯窩の治癒の予測とポンティック形態との検討
大学院生	山田 清貴 (口腔外科学分野)	0-ラジカル水 (負電荷酸素原子) の口腔微生物に対する研究
	大串 圭太 (歯科麻酔学分野)	口腔顔面痛の病態分析 (心理学的・神経学的要因と痛みとの関連)
社会人	小林 大輔 (歯科麻酔学分野)	口腔顔面痛患者の遺伝子多型
大学院生	庵原 義明 (歯科麻酔学分野)	歯科恐怖症患者の背景因子の分析 (顎変形症手術前患者との比較)
専攻生	岡村 大器 (口腔外科学分野)	下顎第三大臼歯の萌出様態による第二大臼歯に対する影響

2. 成果の概要

歯科保存学分野

糖尿病患者に歯周治療を行った一症例

糖尿病は多くの合併症を併発する疾患であり、そのひとつとして歯周病が挙げられている。今回、糖尿病に罹患し慢性辺縁性歯周炎を有する患者に対し、歯周基本治療を中心とする歯周治療を行ったところ、著明な歯肉の改善が認められた。

患者は54歳女性。糖尿病などの基礎疾患を理由に、う触処置と歯周治療の依頼により来院した。初診時、患者はブラッシング時歯肉疼痛を訴え、強い浮腫性歯肉炎症と排膿が認められた。4mm以上の歯周ポケットが全測定部位の30%を占め、GBIは30.4%であった。X線写真上では歯根長1/3～3/4の骨吸収が認められ、多量の縁下歯石の沈着も見られた。以上の検査結果から中等度慢性辺縁性歯周炎と診断し、歯周基本治療を開始した。

歯周基本治療ではまず、モチベーションの向上を図るためブラッシングの効果や歯周治療における血糖コントロールの重要性について繰り返し説明し、自己管理によるプラークコントロールと血糖値安定の必要性について理解を促した。その結果、歯肉炎症が徐々に改善してきたので、軽症部からSRPを開始し、歯肉の反応を見極めながら重症部へと進めていった。排膿部や歯周ポケットが深い部位に対しては、ピエゾ・ルートチップ超音波スケーラーを用いてポケット内の清掃を繰り返し行った。

以上の歯周基本治療により、著明な歯肉炎症の改善が認められ、一部ではあるが歯周外科手術を回避することに成功し、患者の侵襲軽減が得られた。その後、炎症が残存した部位に対してフラップ手術を実施し補綴治療に移行したが、患者が緑内障を併発し治療は中断、1年後に再来院したときには右目を失明していた。失明のためか、プラークコントロールの悪化が見られたが、PMTcとTBIにより再度のプラークコントロールの強化を図ったところ、モチベーションも回復し歯肉も良好に維持されるようになり、メンテナンスに移行した。その後の歯周検査では、歯周外科手術を回避した部位の動揺度が消失し歯槽骨の再生も認められた。

今回のケースでは、良好な血糖コントロールと適切な口腔ケアによって歯周炎のリスクが低下した。その要因として、患者に歯周病と糖尿病の関係について繰り返し説明し、患者の正しい理解が得られたことが挙げられる。また、長期メンテナンスにより、ポケット内の清掃を繰り返し実施できたことも影響しているものと考えられた。

歯科学報 **108**(2), 128～136, 2008

歯科補綴学分野

1) 補綴材料への口腔内細菌の吸着に関する実験的研究 (A05-0792-14)

本研究では、口腔内での唾液タンパクおよび口腔内細菌の吸着が固体面と液界面で起こることを考慮し、吸着現象の実験系に吸着媒として固体を使用し、電気泳動光散乱光度計 (ELS-800 大塚電子社製) による平板状の歯冠用硬質レジンおよびアパタイトのゼータ電位測定法を確立した。電気泳動装置を用いた試料片表面への唾液タンパクの吸着実験では、吸着実験前後のゼータ電位からBSAの吸着状態を比較した。歯冠用硬質レジン表面のゼータ電位とBSA吸着実験後のゼータ電位の比較と接触角から次のような3つの傾向が認められた。BSA吸着実験後のゼータ電位が正に大きくなった材料 (エプリコードとソリデックス、エステニア C&B)、BSA吸着実験後のゼータ電位が負に大きくなった材料 (ルナウィングとグラディアフォルテ)、BSA吸着実験後の

ゼータ電位に有意な差が認められず、接触角が大きい材料（セラマージュとプロシモ、グラディア）に分けられた。以上により、歯冠用硬質レジンではBSAの吸着前後のゼータ電位と接触角の測定によって材料表面へのBSA吸着が多いものと少ないものに分けらる可能性が示唆された。

2) タレット機構を装備するサバイヤーの活用性についての報告 (A06-0792-2)

東京歯科大学水道橋病院にて勤務の医局員15名と歯科技工師7名に改良されたコマツ社製サバイヤーを実際に使用してもらい、前製品との比較検討をアンケートを用いて行った。アンケートでは前の製品と変わらないという評価であったが、タレット部すべてにフリクション機構が整備され、一段と有用性が向上している。今後より機能的かつ有用的な良い製品とするためにさらなる改良が必要であり、①タレット機構、②アームの可動性、③雲台の機構について改良を考えてみたいと思う。

口腔外科学分野

SW知覚テスターによるオトガイ神経支配領域の知覚検査

本研究の目的は、SW知覚テスターによる健常人の静的触覚閾値の分布を調べることである。方法はSW知覚テスターを用いた。対象は男女25人50側（平均23.8±3.1歳）とした。検査部位は下唇枝、口角枝、オトガイ枝とした。対照として示指の値を測定した。各測定部位の平均値は下唇枝2.83±0.76 (gf/mm²)、口角枝2.76±0.47 (gf/mm²)、オトガイ枝2.78±0.76 (gf/mm²)、示指3.66±0.71 (gf/mm²)であった。これらの値の統計学的検索ではオトガイ神経3ヶ所の計測点間の有意差は認められなかったが、3枝と示指間において有意差が認められた。以上の結果よりfilament markingにおける1.65～2.44 (2.52～4.23 gf/mm²)のテスターがこの範囲の基準値と推察された。

日口腔科会誌 57(1), 19～24, 2008

矯正歯科学分野

1) 上下顎同時移動手術を要した著しい骨格性顔面非対称症例の2治験例

近年、患者の審美性に対する要求も高まってきており、骨格の形態的異常や審美性の面をより積極的に改善するために上下顎同時移動手術による外科的矯正治療が多く行われている。今回、著しい骨格性顔面非対称を示す2症例において、術前矯正治療時に歯性補償による頬舌的な歯軸傾斜をワイヤーに付与するトルクにより改善し、上下顎同時移動手術を施行した。その治療前後の骨格の変化、顔貌および咬合の変化等について検討した。その結果、顔面非対称症例の外科的矯正治療において、頬舌的な歯性補償による歯軸傾斜の改善が顔貌の非対称性の改善および咬合の安定に重要である事が示された。

歯科学報 107(3), 336～348, 2007.

2) フォーサス FReD-DPR(ダイレクトプッシュロッド)を用いてAngle II級の大臼歯関係を改善した4症例の臨床的検討

矯正治療を行う上で、大臼歯関係の改善は良好な治療結果を生むための最も重要な因子の一つである。特に上顎前突症例においては、Angle II級の大臼歯関係が過大なオーバージェットの原因となりうる。今回、マルチブラケット装置にて治療中、顎間ゴムの使用状況が悪く、充分

な大臼歯関係の改善が行えなかった症例に対し、固定式 II 級改善装置の一つであるフォーサス FReD-DPR(以下フォーサス)を用い、大臼歯係が大幅に改善され良好な治療結果が得られた。

歯科学報 **107**(4), 389~399, 2007.

3) Sotos 症候群の患者 2 名の顎顔面形態の思春期性成長による変化を調査した。本症候群の患者は上下顎骨の後退と下顔面高の開大した長顔型の顎顔面形態を呈していた。思春期性成長の結果、このパターンはさらに進行し、下顎下縁平面はさらに増加していた。下顎の前方への過成長は認めなかった。本症候群の矯正治療においてはこの垂直成長の推移が重要である事が示唆された。

Bull Tokyo Dent Coll **48**(2), 73~85, 2007

4) 18 歳以上の口唇・口蓋裂初診患者の病像について臨床統計による調査を行った。口唇・口蓋裂患者の約 10% を占め、約半数に矯正治療経験を認めた。転医症例を除く半数は治療を開始せず、矯正治療への何らかの不利益が存在した。治療は外科的矯正治療が予定されたものが半数を占め、治療が複雑化する事が示された。

Bull Tokyo Dent Coll **49**(1), 33~39, 2008

5) 顎顔面歯列に加わる外力の測定と咬合異常との関連について (A99-0590-2)

拇指吸引時に口蓋前方部にかかる圧力を測定した。対象は 3 名の当該習癖を持つ女児で、いずれも開咬を呈していた。最大圧は 2-2.5kgw にて、発現波形とともに個体差が大きかった。吸引癖の特徴と発現圧は関連し、不正咬合タイプと関連を認めた。拇指吸引圧の計測は習癖と不正咬合の定量的解析に有効である事が示唆された。

Bull Tokyo Dental Coll **48**(2), 57~66, 2007

6) 拇指吸引時の口蓋部および頬部圧を測定した。対象は 3 例の拇指吸引癖を持つ女児で 2 名は垂直的開咬を、1 名は水平的開咬を呈していた。頬圧は左右差が大きいが、口蓋部圧と連動していた。個人差も大きく、口蓋部圧は 800-1000g を、頬部圧は 14-500g と大きなばらつきを示した。吸引のタイプと発現する口蓋部、頬部圧との関連は認めず、発現圧の推定は困難であることから、吸引癖の圧動態分析を行う事の必要性が示唆された。

歯科学報 **107**(6), 700~708, 2007

小児歯科学分野

大学病院小児歯科来院患者の定期健診に関する意識調査

小児歯科臨床において定期健診の持つ役割は大きい。定期健診の効果を上げ、受診率を高めていくためにも、保護者や小児の定期健診に対する意識や期待を把握しておくことは重要である。これらを把握する目的で、2004 年 7 月からの 2 か月間に、東京歯科大学水道橋病院小児歯科へ定期健診のため来院した小児の保護者を対象に定期健診に関する意識調査を行った。本調査の目的を説明し、同意を得られた 323 名を対象に調査を行い、以下の結論を得た。

1. 来院小児の年齢分布では、2 歳から年齢が上がるにつれて増加し、6 歳が最も多く、10 歳以降は減少傾向にあった。

2. 回答者が適切と考える定期健診の間隔は、4か月が最も多かった。また、回答した間隔での通院は大多数が負担には感じないと回答していた。

3. 定期健診に期待することは、「虫歯予防」が95.4%と最も多く、次いで「歯並び」「歯ブラシの上達」の順であった。

また、その期待に込められているかに対しては、「十分に期待通り」、「まあ期待通り」を合わせて90%以上を占めていた。

4. 「定期健診にいつまで通うべきか」は、「大人になっても通うべき」が最も多く、次いで「中学卒業まで」であった。

特に定期健診来院小児が減少する10歳以降の小児の歯列の成長や齲蝕予防について、保護者および小児の理解を深めさせていく必要性があると思われた。

小児歯誌 **46**(1), 26~32 2008

歯科麻酔学分野

- 1) 鎮痛関連物質受容体の遺伝子多型が下顎形成術後の疼痛治療に及ぼす影響に関する前向き研究 (A04-0500-10)

これまでに213名を調査し、下顎枝矢状分割術中に採取された血液から、遺伝子多型の解析を行った。全身麻酔導入時のフェンタニール投与前後の示指氷水浸漬による疼痛感知潜時間と術後のPCA法によるフェンタニールの摂取量の両者において、ヒトのニューオピオイド受容体遺伝子OPRM1のSNPの1つA118Gが関連することが判明した。この結果から、A118Gの遺伝子多型によって、オピオイドに対する個々人の感受性の相違を予測できる可能性が示唆された。

平成17~19年度厚生労働科学研究総括報告書 : p76-79、

日本外科系連合学会第33回学術集会シンポジウム発表、IADR 86th General Session 発表、論文作成中

- 2) 静脈内投与及び経口投与アデノシン三リン酸の鎮痛作用

口腔顔面領域においても、治療に難渋する慢性疼痛が存在する。抜髄や抜歯後に生じた神経因性疼痛、慢性化した咀嚼筋痛、舌痛症、带状疱疹後神経痛などで、通常試みられる神経ブロックや薬物治療などの治療に抵抗した症例を対象として、アデノシン三リン酸(ATP)持続静脈内投与を応用し、その鎮痛効果を観察してきた。これまでに応用した125症例の使用経験から得たATP持続静脈内投与の副作用など安全性についてと手術後の痛みを含む鎮痛作用についてこれまでの症例をまとめて検討した。

Anesthesia **9**, 1694~1699, 2007

J Anesth **21**, 24~30, 2007

- 3) 星状神経節ブロック施行時の合併症に関する臨床的検討

星状神経節ブロックは、口腔顔面領域における難治性の疼痛に対して有効なペインクリニックの手法であるが、時として合併症が発現する。そこで、過去10年間の約3万症例をレトロスペクティブに分析し、局所麻酔中毒、上肢麻痺、血腫などの合併症例を抽出し、検討した。

日歯麻会誌 **35**(2), 258~259, 2007

日歯麻会誌 **35**(5), 709~710, 2007

4) リラックス歯科治療外来における長時間外来全身麻酔の臨床的検討

水道橋病院歯科麻酔科のリラックス歯科治療外来において、重度の歯科恐怖症・異常絞扼反射を有する患者には全身麻酔下での治療を余儀なくされ、多数歯う蝕で咬合が崩壊している場合など、処置時間が長時間におよぶ場合がある。そこで、長時間の外来全身麻酔症例の麻酔方法（セボフルランとプロポフォールと比較）、覚醒・回復状態、術後合併症についてレトロスペクティブに調査した。

第 35 回日本歯科酔学会発表、論文作成中

5) フェンタニル急速静脈内投与による咳の発現に関する検討

フェンタニルを急速に静脈内投与すると、咳が発現する。それが量依存性なのか、そのメカニズムはなにかを検討した。量依存性であることは明確になった。咳反射を防止する薬物の事前投与から、メカニズムについて調査中である。

「麻酔」に投稿、現在印刷中

6) 下顎前突症患者における術前不安の検討

下顎矢状分割術を受ける患者の術前不安について、同患者におけるプレート除去術前と STAI を使用して比較検討した。プレート除去術前には、下顎矢状分割術と比較して不安度は低下したが、プレート除去術前でも、高状態不安群に属する患者も認められたことから、術前に十分な心理的配慮が必要であることが示唆された。

第 35 回日本歯科酔学会発表、日歯麻会誌 **36**(1), 38~42, 2008

7) 口腔顔面領域神経因性疼痛の遺伝子多型研究

神経因性疼痛はペインクリニック領域でも最も治療に難渋する慢性疼痛性疾患である。その理由のひとつに発生機序・病態が一樣ではないことがあげられる。日常臨床においても抜髄後、根管治療をいくら施しても執拗に痛みを訴える異常な痛みが存在する。このような歯痛を訴える患者が来院した場合、神経因性疼痛なのか、疼痛性障害なのか、根端部の器質的問題（副根管や根端の破折）またそれによる歯根膜炎なのか、関連歯痛（筋性、血管性）なのか、診断に苦慮することが多い。その一方で遺伝子的要因として神経因性疼痛と鎮痛関連物質および神経伝達物質受容体の遺伝子多型の関係が現在注目されている。東京歯科大学倫理委員会に承認を得て、薬理的疼痛機序判別試験に従った診断チャートによって神経因性疼痛と診断された患者を対象として、遺伝子分析を行っている。

8) 歯科恐怖症・強度嘔吐患者の背景因子の分析

歯科恐怖症・強度嘔吐患者の発症には、幼少時の経験や精神疾患は関連があるのか。一般の人との間に不安状態に相違があるのか。その背景を調査し分析した。

第 35 回日本歯科酔学会発表、論文作成中

9) 顎変形症手術の出血に及ぼす影響因子の検討

顎変形症手術の出血量に、全身麻酔法の種類、血管収縮薬の濃度、低血圧麻酔施行の有無、手術執刀医、筋弛緩薬持続投与の有無、麻薬性鎮痛薬の有無、手術時間が影響を及ぼすか否かをについて顎変形症手術過去 10 年間の 938 症例を対象にレトロスペクティブに調査した。影響していたのは、手術時間のみであった。経年的に手術時間が短縮するとともに、出血量は減少していた。

第 284 回東京歯科大学学会総会発表

口腔インプラント学分野

1) 歯牙への被圧状態に関わる中枢の活動

本研究の目的は、歯牙への被圧状態の認識に関わる中枢の活動を把握し、歯根膜受圧感覚情報の意義を解明することである。これまで上顎中切歯、上顎犬歯ならびに下顎中切歯への触覚刺激に伴う脳磁場計測を行い、歯根膜受圧感覚の大脳皮質上の応答を観察した。さらに、浸潤麻酔により歯根膜受圧感覚情報を欠落させた際の中枢応答の観察を試みた。

2) 歯科インプラント上部構造の力学特性の解明

米国ワシントン大学補綴学講座へ海外出張において、インプラント上部構造の装着に関わる力学特性について調査を行った。現在データ解析中であり、専門誌への投稿を検討している。

3) インプラント手術時の生体反応に関する臨床的研究

インプラント埋入手術を実施する症例の全身状態の経時的変化を全身麻酔法、静脈内鎮静法、モニター管理のみの三つで記録し、手術の進行に伴う全身状態の変化を把握する一方、手術時間、部位、手術法、埋入本数、浸潤麻酔量、基礎疾患などの施術要因が全身状態の変化に及ぼす影響を把握し生体への侵襲の少ない臨床術式への指針を明らかにする。

4) インプラント即時負荷術式に対する臨床的評価

一定の条件下においては、インプラント埋入と同時に上部構造を装着し、埋入後即時に機能圧を負荷することが可能である。本術式は、従来の待時負荷術式に比較し、術直後の患者の QOL 向上に有効であると考えられる。本研究では、即時ならびに待時負荷術式を採用した症例の機能向上の程度を把握することにより、即時負荷術式の適用指針と有効性について明らかにする。

総合歯科学分野

総合診療の進め方の検討

総合診療を進めるにあたっては、①患者中心の診療を行うこと、②計画診療を行うこと、③診療の流れのパターンを作ることが必要である。そのためには一口腔単位での治療が必要であり、患者固有の硬組織及び軟組織の機能を重視した治療計画が必要となってくる。このように受診者来院時からの個々のステップをひとつひとつ検討し、機能回復を図るべく診療にあたっている。

3. 学外共同研究

担当者	研究課題	学外研究施設		
		研究施設	所在地	責任者
福田 謙一	静脈内投与及び経口投与アデノシン三リン酸の鎮痛作用	ハーバーUCLA メディカルセンター 麻酔科	U. S. A	福永敦翁
福田 謙一	鎮痛関連物質受容体の遺伝子多型が下顎骨切り術後の疼痛治療に及ぼす影響に関する前向き研究	東京大学医科学研究所	東京	林田眞和
		東京都精神医学総合研究所分子精神医学研究部門	東京	池田和隆
福田 謙一 小林 大輔	口腔顔面領域神経因性疼痛の遺伝子多型研究	東京大学医科学研究所	東京	林田眞和
		東京都精神医学総合研究所分子精神医学研究部門	東京	池田和隆
関根 秀志	歯科インプラント上部構造の力学特性の解明	ワシントン大学補綴学講座	米国・ワシントン州・シアトル	J.E. Rubenstein
齋藤 淳	学習環境とその改善にむけた介入に関する研究	バンクーバーコミュニティカレッジ	カナダ	Ginny Cathcart Susanne Sunell
		ブリティッシュコロンビア大学 宮城高等歯科衛生士学院	仙台	佐藤陽子

4. 科学研究費補助金

研究代表者	研究課題	研究費
高久勇一朗	負電荷酸素原子の生体反応に関する病理組織学的研究	文部科学省研究費・萌芽研究

5. 研究活動の特記すべき事項

受賞

受賞者名	年月日	賞名	テーマ	学会・団体名
高野 正行	2006. 11. 7	Best Poster Presentation	Reliability of the vital staining with iodine and toluidine blue solutions to detect and delineate oral epithelial dysplasia and carcinoma	7th Asian Congress on Oral and Maxillofacial Surgery

受賞者名	年月日	賞名	テーマ	学会・団体名
高崎 義人	2007. 9. 29	ポスター優秀賞 (ゴールドリボン賞)	下顎骨切除時における下歯槽神経修復手術後の静的触覚閾値変化	第 52 回社団法人日本口腔外科学会総会・学術大会

学会招待講演

講演者名	年月日	演題	学会・研究会名	開催地
福田 謙一	2008. 3. 1	口腔顔面領域の神経損傷による痛み	第 12 回口腔顔面神経機能学会	東京

6. 教育講演等教育に関する業績、活動

講演者	年月日	演題	学会・研究会名	開催地
柿澤 卓	2007. 6. 9	歯科医院における院内感染予防のポイント	東京歯科大学同窓会川崎支部学術講演会	熱海市
柿澤 卓	2007. 11. 15	HIV 感染者の歯科治療	東京都エイズ診療従事者派遣事業研修	東京
柿澤 卓	2007. 11. 23	歯科医院における感染予防のポイント	東京歯科大学和歌山県支部同窓会	和歌山市
高野 正行	2007. 4. 11	インプラントのための骨移植法とその経過	水道橋病院症例検討会	東京
高野 正行	2007. 7. 23-24	Anatomy, surgical approaches and soft tissue handling	AO CMF Starter Seminar Niigata	Niigata
高野 正行	2007. 7. 23-24	Treatment of communitated and defect fractures in mandible	AO CMF Starter Seminar Niigata	Niigata
高野 正行	2007. 9. 12	口腔粘膜の見かた	東京都福生市歯科医師会	福生市
高野 正行	2007. 9. 13	最近の感染予防	埼玉県歯科衛生士研修会	さいたま市
高野 正行	2007. 9. 30	安全な骨切り	第 52 回 (社) 日本口腔外科学会総会 口腔外科学会ハンズオンコース	名古屋市
高野 正行	2007. 11. 10	歯科口腔外科領域での 3 次元造形の応用と期待	第 26 回 3 次元造形研究会	東京
高野 正行	2007. 11. 15	感染予防と Standard Precautions	東京都エイズ診療従事者派遣事業研修	東京
高野 正行	2008. 3. 15	口腔粘膜のみかた 2 解説と実習	東京都福生市歯科医師会	福生市
古澤 成博	2008. 8. 2	歯科用実体顕微鏡を応用した歯内療法処置とその周辺	京都歯科学術研究会	京都市

講演者	年月日	演題	学会・研究会名	開催地
古澤 成博	2008. 2. 24	「新歯科臨床研修制度と本学臨床研修歯科医の現状」	東京歯科大学同窓会船橋支部	船橋市
福田 謙一	2007. 4. 11	リラックス歯科治療外来の現況	水道橋病院症例検討会	東京
福田 謙一	2007. 4. 14	歯科における疼痛管理	東京歯科大学同窓会静岡県支部学術講演会	静岡市
福田 謙一	2007. 6. 15	歯科における痛みと全身管理	沖縄県歯科医師会学術講演会	名護市
福田 謙一	2007. 6. 21	小手術・インプラント手術時の全身管理と神経障害への対応	KO デンタル講習会	東京
福田 謙一	2007. 7. 29	インプラント手術後の神経障害への対応	東京都歯科医師会卒後研修会	東京
福田 謙一	2007. 8. 12	インプラント手術における全身管理と神経損傷時の対応	DIOR インプラントセミナー	東京
福田 謙一	2007. 11. 17	インプラント治療におけるリスクマネージメントの実践	クロスウェルインプラントセミナー	東京
福田 謙一	2008. 2. 20	歯科医院におけるリスクマネージメント	東京歯科大学同窓会千代田支部	東京
福田 謙一	2008. 3. 16	インプラント手術における全身管理と神経損傷時の対応	DIOR インプラントセミナー	東京
関根 秀志	2007. 4. 7	骨結合のリスクファクター	GC インプラントセミナーベーシックコース	東京
関根 秀志	2007. 4. 8	インプラント補綴術式概論	GC インプラントセミナーベーシックコース	東京
関根 秀志	2007. 4. 8	インプラントのメンテナンス	GC インプラントセミナーベーシックコース	東京
関根 秀志	2007. 5. 27	歯周組織を考慮したトップダウントリートメントの実践	GC インプラントセミナーテクニカルコース・補綴	東京
関根 秀志	2007. 6. 10	インプラントにおける審美治療	日本口腔インプラント学会認定研修施設植義歯研究所 認定医のための100時間講習会	仙台市
関根 秀志	2007. 6. 30	インプラント補綴における咬合接触	平成19年度インプラントを考える会・東京 学術講演会	東京
関根 秀志	2007. 7. 15	欠損補綴へのインプラント治療の導入	東京歯科大学同窓会島根県支部学術講演会	松江市

講演者	年月日	演題	学会・研究会名	開催地
関根 秀志	2007. 8. 9	スタンダードなインプラント治療を考える	群馬県歯科医師会歯科衛生士職場復帰支援セミナー	前橋市
関根 秀志	2007. 9. 5-6	インプラント治療導入のABC	東京歯科大学同窓会卒後研修セミナー	東京
関根 秀志	2007. 10. 27	インプラント治療における診査・診断の基本事項	千葉デンタルアカデミー研修講演会	千葉市
関根 秀志	2007. 11. 24	骨結合のリスクファクター	GCインプラントセミナーベーシックコース	東京
関根 秀志	2007. 11. 25	インプラント補綴術式概論	GCインプラントセミナーベーシックコース	東京
関根 秀志	2007. 11. 25	インプラントのメンテナンス	GCインプラントセミナーベーシックコース	東京
関根 秀志	2007. 11. 28	インプラント治療の基礎	藤岡多野歯科医師会学術講演会	藤岡市
関根 秀志	2008. 2. 24	歯周組織を考慮したトップダウントリートメントの実践	GCインプラントセミナーテクニカルコース・補綴	東京
関根 秀志	2008. 3. 12	インプラント治療の注意点	太田デンタルリサーチ学術講演会	太田市
辻野啓一郎	2007. 4. 11	水道橋病院の障害者歯科治療の現況	水道橋病院症例検討会	東京
齋藤 淳	2007. 8. 2	歯科衛生ケアプロセスー基本概念と教育への導入ー	北海道歯科衛生士養成期間連絡協議会 専任教員研修会	札幌
高崎 義人	2007. 12. 8	歯科治療時の神経麻痺への病診連携ー臨床例を中心とした患者さんへの対応ー	東京歯科大学同窓会群馬県支部	前橋市
横山 葉子	2007. 11. 15	当院における感染予防対策	東京都エイズ診療従事者派遣事業研修	東京

教育ワークショップ等

氏名	年月日	ワークショップ名	役割	開催地
古澤 成博	2007. 10. 13-14	第21回東京歯科大学カリキュラム研修ワークショップ	タスクフォース	千葉市
古澤 成博	2007. 12. 15-17	歯科医療研修振興財団第2回プログラム責任者講習会	参加者	千葉市

共用試験等

氏名	年月日	種別	役割	開催地
高野 正行	2007. 7. 7	平成 19 年度水道橋病院臨床研修歯科医 OSCE	実行委員長	東京
細川 壮平 瀬田 修一 田口 達夫 海老原 環	2007. 7. 7	平成 19 年度水道橋病院臨床研修歯科医 OSCE	ST 責任者	東京
小貫 瑞穂	2007. 7. 7	平成 19 年度水道橋病院臨床研修歯科医 OSCE	評価者	東京
小貫 瑞穂	2007. 7. 7	平成 19 年度水道橋病院臨床研修歯科医 OSCE	器材	東京
齋田菜緒子	2007. 7. 7	平成 19 年度水道橋病院臨床研修歯科医 OSCE	誘導	東京
今井 崇之	2007. 7. 7	平成 19 年度水道橋病院臨床研修歯科医 OSCE	進行	東京
小坂 竜也	2007. 7. 7	平成 19 年度水道橋病院臨床研修歯科医 OSCE	記録	東京

1. 口腔健康臨床科学講座 1) 歯科保存学分野

論 文

1. 中村亜依⁽¹⁾, 佐藤陽子⁽¹⁾, 齋藤 淳 : 歯科衛生士教育におけるフォーマルディベートの導入, 日歯医教会誌 **23**(1), 33~41, 2007. 原著 (1)宮城高等歯科衛生士学院
2. Sato,Y.⁽¹⁾, Saito,A., Nakamura-Miura,A.⁽¹⁾, Kato,E.⁽¹⁾, Cathcart,G.⁽²⁾ : Application of the Dental Hygiene Human Needs Conceptual Model and the Oral Health-related Quality of Life Model to the dental hygiene curriculum in Japan, Int J Dent Hyg **5**(3), 158~164, 2007. 原著 (1)Miyagi Advanced Dental Hygienist College,(2)Vancouver Community College, Dental Hygiene
3. 有泉裕吾⁽¹⁾, 吉田 隆⁽²⁾, 山口 恵⁽²⁾, 田野ルミ⁽²⁾, 古澤成博⁽³⁾, 高久 悟⁽²⁾, 田中丸 治宣⁽¹⁾, 槇石武美 : 歯科衛生士教育における学外臨床実習—特に診療補助実習について—, 日歯医教会誌 **23**(2), 168~175, 2007. 臨床 (1)静岡県立大・短大部・歯科衛生,(2)埼玉県立大・保健医療福祉,(3)口健臨・総合歯
4. 佐藤陽子⁽¹⁾, 阿部良枝⁽¹⁾, 中村亜依⁽¹⁾, 加藤映美子⁽¹⁾, 安住弘子⁽¹⁾, 羽田美佳⁽¹⁾, 松本聡代⁽¹⁾, 齋藤 淳 : 歯科衛生士教育における歯科衛生診断の導入 —学内実習の歯科衛生ケアプロセス展開における歯科衛生診断文の分析—, 日歯衛会誌 **2**(1), 30~36, 2007. 原著 (1)宮城高等歯科衛生士学院
5. 吉田 隆⁽¹⁾, 有泉裕吾⁽²⁾, 田野ルミ⁽¹⁾, 細川壮平⁽³⁾, 小貫瑞穂⁽³⁾, 大迫美穂⁽³⁾, 古澤成博⁽³⁾, 槇石武美 : 歯科衛生士教育機関における診療補助実習—第 3 報 臨床実習における保存処置について—, 日歯保存誌 **51**(1), 72~81, 2008. 臨床 (1)埼玉県立大・保健医療福祉学部・健康開発学科口腔保健学専攻,(2)静岡県立大・短大部・歯科衛生,(3)口健臨・総合歯

解 説

1. 森山貴史 : 歯周病と全身疾患(前編) 歯周病は全身にも影響する, 日本医事新報 **4355**, 49~52, 2007.
2. 森山貴史 : 歯周病と全身疾患(後編)歯周病は糖尿病に影響する, 日本医事新報 **4356**, 49~52, 2007.

その他

1. 齋藤 淳, 佐藤陽子⁽¹⁾ : World Topics 「ビスホスホネート関連の顎骨壊死:文献レビューと臨床ガイドライン」, 歯衛士 **31**(5), 94, 2007. (1)宮城高等歯科衛生士学院
2. 森山貴史 : からだと心健康相談「親知らずの手術をすすめられた。どのようなものか詳しく教えてほしい」, すこやかファミリー(560), 30, 2007.
3. 齋藤 淳, 佐藤陽子⁽¹⁾ : World Topics 「歯科衛生が学問分野として発展するための議論」, 歯衛士 **31**(9), 35, 2007. (1)宮城高等歯科衛生士学院
4. 槇石武美 : なぜ差があるの?歯科の治療費, NHK テレビテキスト きょうの健康 **6**, 107~109, 2007.

5. 齋藤 淳, 佐藤陽子⁽¹⁾ : World Topics 「多量のプラーク沈着, 重度の歯肉炎症を有する女性における動脈硬化症形成のリスク」, 歯衛士 **32**(1), 86, 2008. (1)宮城高等歯科衛生士学院

学会抄録

1. 齋藤 淳, 佐藤陽子⁽¹⁾, 中村亜依⁽¹⁾, 松本聡代⁽¹⁾, 中川種昭⁽²⁾, 山田 了⁽³⁾ : 歯科衛生士教育における歯科衛生診断の導入, 日歯周病会誌 **49**(秋季特別), 239, 2007. (日本歯周病学会 50 周年記念大会, 東京) (1)宮城高等歯科衛生士学院,(2)慶大・医・歯口外,(3)歯周病
2. 上島文江⁽¹⁾, 森山貴史, 松本信哉, 古澤成博⁽²⁾, 榎石武美 : 糖尿病患者に歯周治療を行った一症例, 歯科学報 **107**(4), 462, 2007. (第 284 回東京歯科大学学会(総会), 千葉市) (1)水病・歯科衛生士部,(2)口健臨・総合歯
3. 益田仁美⁽¹⁾, 森山貴史, 松本信哉, 古澤成博⁽²⁾, 榎石武美 : 歯ブラシの把持法の変更によりプラークコントロールが改善した一症例, 歯科学報 **107**(4), 462, 2007. (第 284 回東京歯科大学学会(総会), 千葉) (1)水病・歯科衛生士部,(2)口健臨・総合歯
4. 井田 篤, 森山貴史, 松本信哉, 水戸部明子, 榎石武美 : 薬物性歯肉増殖に対し歯肉切除術を行った一症例, 歯科学報 **107**(4), 468, 2007. (第 284 回東京歯科大学学会(総会), 千葉)
5. 富田千秋⁽¹⁾, 佐藤陽子⁽²⁾, 齋藤 淳 : 日本とカナダの歯科衛生士学生の職業意識に関する研究, 日歯衛会誌 **2**(1), 224~225, 2007. (日本歯科衛生学会第 2 回学術大会, 福岡) (1)宮城県歯科衛生士会,(2)宮城高等歯科衛生士学院
6. Nakamura-Miura,A.⁽¹⁾, Haneta,M.⁽¹⁾, Yoko,S.⁽¹⁾, Saito,A., Yoshida,N.⁽¹⁾ : Dysphagia management in a 3-year dental hygiene education programme in Japan., ISDH abstracts, 15, 2007. (17th International Symposium on Dental Hygiene, Toronto, Canada) (1)Miyagi Advanced Dental Hygienist College
7. 吉田 隆⁽¹⁾, 田野ルミ⁽¹⁾, 山口 恵⁽¹⁾, 古澤成博⁽²⁾, 高久 悟⁽¹⁾, 榎石武美 : これからの歯科衛生士教育の検討 第 1 報 歯科医師及び歯科衛生士から見た歯科衛生士像, 日本歯科医学教育学会抄録集, 100, 2007. (第 26 回日本歯科医学教育学会総会・学術大会, 岐阜) (1)埼玉県立大・保健医療福祉,(2)口健臨・総合歯

1. 口腔健康臨床科学講座 2) 歯科補綴学分野

論 文

1. Tomita, Y.⁽¹⁾, Miyake, N., Yamanaka, S.⁽²⁾ : Lipids in human Parotid saliva with regard to caries experience, J Oleo Sci **57**(2), 115~121, 2007. 原著 A89-0120-1 生素研 (1)生化学,(2)衛生
2. Tomita, Y.⁽¹⁾, Miyake, N., Yamanaka, S.⁽²⁾ : Phospholipid profiles in the salivary glands of rats of different ages, J Oleo Sci **56**(7), 369~375, 2007. 原著 A88-0120-1 生素研 実動施設 (1)生化学,(2)衛生

学会抄録

1. 田口達夫⁽¹⁾, 関根秀志⁽¹⁾, 松崎文頼⁽¹⁾, 山上美樹, 飯島俊一⁽¹⁾, 椎貝達夫⁽¹⁾, 武田孝之⁽¹⁾, 福田謙一⁽²⁾, 笠原正貴⁽²⁾, 齋田 菜緒子⁽²⁾, 半田 麻里子⁽²⁾ : 新しい生体モニター用いてインプラント埋入手術を行った症例, 歯科学報 **107**(2), 240, 2007. (第 283 回 東京歯科大学学会(例会), 千葉市) (1)口健臨・口腔インプラント,(2)口健臨・歯麻
2. 栗田 麗, 大貫智宏, 永島 絵梨奈, 松崎文頼⁽¹⁾, 山本るみ, 神崎英行, 小林 麻衣子, 古屋克典, 山上美樹, 金井由起, 三宅 菜穂子, 田口達夫⁽¹⁾, 堀田宏巳, 関根秀志⁽¹⁾, 安達 康 : タレット機構を装備するサバイヤーの活用性についての報告—第 2 報—, 日補綴歯会誌 **50**(第 116 回特別号), 115, 2007. (第 116 回日本補綴歯科学会学術大会, 神戸市) A06-0792-2 (1)口健臨・口腔インプラント
3. Tomita, Y.⁽¹⁾, Miyake, N., Yamanaka, S.⁽²⁾ : Lipids in human saliva with regard to caries experience, 98th AOCS Annual Meeting & Expo Abstracts, 76, 2007. (98th AOCS Annual Meeting & Expo, Quebec, Canada) A89-0120-1 生素研 (1)生化学,(2)衛生
4. 松崎文頼⁽¹⁾, 関根秀志⁽¹⁾, 田口達夫⁽¹⁾, 安達 康 : 義歯床によるリップサポートの顔貌への影響について, 日口腔インプラント会誌 **21**(1), 262, 2008. (第 37 回 日本口腔インプラント学会総会・学術大会, 熊本市) (1)口健臨・口腔インプラント
5. 関根秀志⁽¹⁾, 田口達夫⁽¹⁾, 松崎文頼⁽¹⁾, 山上美樹, 神崎英行, 小林麻衣子, 古屋克典 : 下顎臼歯部へのインプラント治療により神経症状を生じた一例, 第 12 回 口腔顔面神経機能学会総会 プログラム・抄録, 22, 2008. (第 12 回 口腔顔面神経機能学会総会, 東京) (1)口健臨・口腔インプラント

1. 口腔健康臨床科学講座 3) 口腔外科学分野

論 文

1. 横山葉子, 高崎義人, 今井崇之, 松井 隆, 高野正行, 柿澤 卓 : 下顎骨区域切除後に大耳介神経の遊離自家移植を行った1例 - 知覚障害の回復過程について -, 日口腔診断会誌 **20**(2), 417~421, 2007. 症例
2. Sekine,H.⁽¹⁾, Taguchi,T.⁽¹⁾, Seta,S., Takano,M., takeda,t.⁽¹⁾, Kakizawa,T. : Dental Implant Treatment with Different Techniques for Sinus Floor Elevation-A Case Report, Bull Tokyo Dent Coll **48**(2), 87~91, 2007. 原著 (1)口健臨・口腔インプラント
3. 海老原 環⁽¹⁾, 末石研二⁽¹⁾, 高野正行, 柿澤 卓 : 上下顎同時移動手術を要した著しい骨格性顔面非対称症例の2治験例, 歯科学報 **107**(3), 336~348, 2007. 原著 (1)口健臨・矯正
4. 小林弥生, 筋生田 整治⁽¹⁾, 茂木伸夫⁽¹⁾, 大山定男⁽¹⁾, 味澤 篤⁽²⁾ : 口腔内に初発した HIV 関連悪性リンパ腫の1例, 日本エイズ学会誌 **9**(3), 231~234, 2007. 症例 (1)都立駒込病院・歯科口腔外科,(2)都立駒込病院・感染症科
5. 関根 亜理紗, 藤田佳子, 桑山真寧, 秋元善次, 高野正行, 柿澤 卓 : Le Fort I 型骨切り術および下顎枝矢状分割術を施行した Marfan 症候群の1例, 日口腔外会誌 **53**(9), 563~567, 2007. 症例
6. 瀬田修一, 高野正行, 高崎義人, 今井崇之, 藤田佳子, 柿澤 卓 : 下顎埋伏智歯抜歯時に生じた下顎管を含む下顎枝部骨折の1例, 日口腔診断会誌 **20**(2), 391~394, 2007. 症例
7. 松井 隆, 山村哲夫, 横山葉子, 高崎義人, 高野正行, 柿澤 卓 : スケーリングルートプレーニング後に発症した丹毒の1例, 日口腔診断会誌 **20**(2), 409~412, 2007. 症例
8. 高久 勇一郎, 高崎義人, 藤田佳子, 大山定男, 瀬田修一, 横山葉子, 高野正行, 柿澤 卓 : SW 知覚テストによるオトガイ神経支配領域の知覚検査 - 19歳から29歳の基準値 -, 日口腔科会誌 **57**(1), 231~234, 2008. 原著

単行図書

1. 柿澤 卓(a),(b): 著分担 : 薬'08/'09 歯科 疾患名か治療薬と処方例がすぐわかる本 (a)口腔放線菌症 99頁,(b)歯性上顎洞炎 100~101頁, クインテッセンス出版株式会社, 東京, 2008.

学会抄録

1. 柿澤 卓, 高野正行, 高崎義人, 横山葉子, 今井崇之, 桑山真寧, 関根 亜理紗, 渡辺玲子, 海老原 環⁽¹⁾, 林 正樹⁽¹⁾, 宮崎晴代⁽¹⁾, 末石研二⁽¹⁾ : 複雑な顎変形症に対する実体石膏顎骨モデルを用いた手術計画, 日顎変形会誌 **17**(2), 146, 2007. (第19回日本顎変形症学会総会, 新潟市) (1)口健臨・矯正
2. 渡辺玲子, 柿澤 卓, 高野正行, 高崎義人, 横山葉子, 瀬田修一, 桑山真寧, 末石研二⁽¹⁾, 海老原 環⁽¹⁾ : 術後治療中断期間中に著明なあと戻りを来した3症例, 日顎変形会誌 **17**(2), 167, 2007. (第19回日本顎変形症学会総会, 新潟市) 脳科学研 (1)口健臨・矯正

3. 海老原 環⁽¹⁾, 林 正樹⁽¹⁾, 宮崎晴代⁽¹⁾, 末石研二⁽¹⁾, 今井崇之, 秋元善次, 横山葉子, 山 満⁽²⁾, 高野正行 : 上下顎同時移動手術を要した著しい骨格性下顎前突症・顔面非対称症例の 2 治験例, 日顎変形会誌 **17**(2), 167, 2007. (第 17 回日本顎変形症学会総会, 新潟市) (1)口健臨・矯正,(2)口健臨・歯放
4. 浜瀬真紀⁽¹⁾, 山本雅絵⁽¹⁾, 与謝野 明⁽¹⁾, 神尾 崇⁽¹⁾, 椎木 さやか⁽¹⁾, 笠原清弘⁽¹⁾, 高崎義人, 高木 多加志⁽¹⁾, 内山健志⁽¹⁾, 高野伸夫⁽¹⁾, 柴原孝彦⁽¹⁾ : オトガイ形成術術後の知覚障害に関する臨床的研究, 日顎変形会誌 **17**(2), 172, 2007. (第 17 回日本顎変形症学会総会, 新潟市) (1)口外
5. 相澤光博⁽¹⁾, 山本正紀⁽¹⁾, 山 満⁽²⁾, 高野正行, 柿澤 卓, 西川慶一⁽¹⁾, 佐野 司⁽¹⁾, 村上伸一⁽³⁾ : 3 次元領域拡張法による X 線 CT 画像からの骨領域高精度自動抽出の試み, 歯放線 **47**(2), 98, 2007. (第 48 回日本歯科放射線学会総会・学術大会, さいたま市) (1)歯放,(2)口健臨・歯放,(3)東京電機大・工
6. 相澤光博⁽¹⁾, 山本正紀⁽¹⁾, 山 満⁽²⁾, 高野正行, 柿澤 卓, 西川慶一⁽³⁾, 佐野 司⁽³⁾, 村上伸一⁽⁴⁾ : PC 用 X 線 CT 骨 3 次元画像構成ソフトの開発, 歯放線 **47**(2), 98, 2007. (第 48 回日本歯科放射線学会総会・学術大会, さいたま市) (1)東歯大・水病・放射線科,(2)口健臨・歯放,(3)歯放,(4)東京電機大・工
7. 山田清貴, 高久 勇一郎, 柿澤 卓, 奥田克爾⁽¹⁾, 加藤哲男⁽¹⁾ : O-ラジカル水(負電荷酸素原子)の口腔微生物に対する抗菌効果, J Oral Biosci **49**(Suppl), 96, 2007. (第 49 回歯科基礎医学会学術大会ならびに総会, 札幌市) 分子生研 (1)微生物
8. 高野正行, 柿澤 卓, 高崎義人, 高久 勇一郎, 今井崇之, 桑山真寧, 松坂賢一⁽¹⁾, 橋本貞充⁽²⁾ : 口腔前癌病変と早期癌の補助診断としてのヨード染色とトルイジンブルー染色の比較, 日口腔外会誌 **53**(Suppl), 110, 2007. (第 52 回日本口腔外科学会総会, 名古屋市) (1)臨検査,(2)病理
9. 高崎義人, 高野正行, 柴原孝彦⁽¹⁾, 山根源之⁽²⁾, 柿澤 卓, 野間弘康⁽¹⁾ : 下顎骨切除時における歯槽神経修復手術後の静的触覚閾値変化, 日口腔外会誌 **53**(Suppl), 169, 2007. (第 52 回日本口腔外科学会総会, 名古屋市) (1)口外,(2)市病・オーラルメディスン
10. 高久 勇一郎, 高崎義人, 山田清貴, 藤田佳子, 桑山真寧, 瀬田修一, 横山葉子, 高野正行, 柿澤 卓 : 当科における corticotomy の臨床的検討, 日口腔外会誌 **53**(総会特別号), 182, 2007. (第 52 回日本口腔外科学会総会, 名古屋市)
11. 朝波志穂⁽¹⁾, 大串圭太⁽¹⁾, 大坪有子⁽¹⁾, 宮尾 真理子⁽¹⁾, 半田 麻里子⁽¹⁾, 齋田 菜緒子⁽¹⁾, 笠原正貴⁽¹⁾, 福田謙一⁽¹⁾, 高北義彦⁽¹⁾, 山 満⁽²⁾, 瀬田修一, 秋元善次, 横山葉子, 高崎義人, 高野正行, 柿澤 卓, 一戸達也⁽³⁾, 金子 譲⁽³⁾ : 1997 年 1 月~2007 年 6 月までの 10 年 6 ヶ月間における東京歯科大学水道橋病院での顎変形手術の臨床統計, 歯科学報 **107**(4), 454, 2007. (第 284 回東京歯科大学学会(総会), 千葉市) (1)口健臨・歯麻,(2)口健臨・歯放,(3)歯麻
12. 高橋俊之⁽¹⁾, 角田正健⁽¹⁾, 石井拓男⁽²⁾, 一戸達也⁽³⁾, 亀山敦史⁽⁴⁾, 古澤成博⁽⁵⁾, 柿澤 卓, 外木守雄⁽⁶⁾, 岡崎雄一郎⁽⁷⁾, 山根源之⁽⁶⁾ : 東京歯科大学歯科医師臨床研修における初期研修の検討, 歯科学報 **107**(4), 455, 2007. (第 284 回東京歯科大学学会(総会), 千葉市) (1)千病・総合診療科,(2)社会歯,(3)歯麻,(4)保存修復,(5)口健臨・総合歯,(6)市病・オーラルメディスン,(7)市病・口腔がんセンター

13. 風岡 亜樹子⁽¹⁾, 中澤 梓⁽¹⁾, 太田香織⁽¹⁾, 小島桂子⁽¹⁾, 鈴木福代⁽¹⁾, 関根 亜理紗, 桑山真寧, 笠原正貴⁽²⁾, 瀬田修一, 高崎義人, 高野正行, 柿澤 卓 : 自己血採血時の看護の標準化を目指して - 自己血採血クリニカルパスを活用して -, 歯科学報 **107**(4), 457, 2007. (第 284 回東京歯科大学学会(総会), 千葉市) (1)水病・看護, (2)口健臨・菌麻
14. 松井 隆, 山村哲夫, 横山葉子, 高崎義人, 山 満⁽¹⁾, 高野正行, 仁科牧子⁽²⁾, 柿澤 卓 : スケーリング・ルートプレーニング後に発症した丹毒の 1 例, 歯科学報 **107**(4), 469, 2007. (第 284 回東京歯科大学学会(総会), 千葉市) (1)口健臨・菌放,(2)水病・内科
15. 山 満⁽¹⁾, 和光 衛⁽²⁾, 佐野 司⁽²⁾, 柿澤 卓, 松井 隆 : 上顎歯肉に発生した口腔トリコモナス症の画像所見, 歯放線 **47**(3), 140, 2007. (日本歯科放射線学会 第 12 回臨床画像大会, 柏市) (1)口健臨・菌放,(2)菌放
16. Takano,M., Kakizawa,T., Takasaki,Y., Takaku,Y., Seta,S., Kuwayama,M., Imai,T., Matsuzaka,K.⁽¹⁾, Hashimoto,S.⁽²⁾ : COMPARISON OF RELIABILITY OF THE VITAL STAINING WITH IODINE AND TOLUIDINE BLUE SOLUTIONS TO DETECT AND DELINEATE ORAL EPITHELIAL DYSPLASIA AND CARCINOMA, 89th AAOMS Annual Meeting Program, 75, 2007. (89th AAOMS Annual Meeting. Scientific Sessions and Exhibition in conjunction with the Japanese Society of Oral and Maxillofacial Surgeons and the Korean Association of Oral and Maxillofacial Surgeons, Honolulu, USA) (1)臨検査,(2)病理
17. Takasaki,Y., Takano,M., Shibahara,T.⁽¹⁾, Yamane,G.⁽²⁾, Kakizawa,T., Noma,H.⁽¹⁾ : A CLINICAL STUDY OF CHANGES IN STATIC TACTILE THRESHOLDS FOLLOWING THE NERVE REPAIR OPERATION DURING MANDIBULECTOMY, 89th AAOMS Annual Meeting Program, 81, 2007. (89th AAOMS Annual Meeting. Scientific Sessions and Exhibition in conjunction with the Japanese Society of Oral and Maxillofacial Surgeons and the Korean Association of Oral and Maxillofacial Surgeons, Honolulu, USA) (1)口外,(2)市病・オーラルメディスン
18. Takaku,Y., Takasaki,Y., Yamada,K., Fujita,Y., Kuwayama,M., Seta,S., Yokoyama,Y., Takano,M., Kakizawa,T. : A CLINICAL STUDY OF CORTICOTOMY IN OUR HOSPITAL, 89th AAOMS Annual Meeting Program, 82, 2007. (89th AAOMS Annual Meeting. Scientific Sessions and Exhibition in conjunction with the Japanese Society of Oral and Maxillofacial Surgeons and the Korean Association of Oral and Maxillofacial Surgeons, Honolulu, USA)
19. Yamamura,T., Takasaki,Y., Hamase,M.⁽¹⁾, Takano,M., Kakizawa,T., Noma,H.⁽¹⁾ : A statistical analysis of neurosensory disturbance after sagittal splitting ramus osteotomy, Int J Oral Maxillofac Surg **36**(11), 1097, 2007. (18th International Conference on Oral and Maxillofacial Surgery, Bangalore, India) (1)口外
20. Takasaki,Y., Hamase,M.⁽¹⁾, Kuwayama,M., Takano,M., Shibahara,T.⁽¹⁾, Kakizawa,T. : A clinical study of sensory disturbance following the nerve repair operation during mandibulectom, Int J Oral Maxillofac Surg **36**(11), 1106, 2007. (18th International Conference on Oral and Maxillofacial Surgery, Bangalore, India) (1)口外
21. 大山定男⁽¹⁾, 吉田俊一⁽¹⁾, 白田 慎⁽¹⁾, 筋生田 整治⁽¹⁾, 内田育宏⁽¹⁾, 小宮善昭⁽¹⁾, 横山葉子, 高野正行, 柿澤 卓 : 口腔内に発生した多形型横紋筋肉腫の 1 例, 日口腔外会誌 **53**(11), 695, 2007. (第 183 回日本口腔外科学会関東地方会, 横浜市) (1)都立駒込病院・口腔外科
22. 瀬田修一, 古澤 圭, 高崎義人, 高野正行, 柿澤 卓, 松坂賢一⁽¹⁾ : 上顎前歯部に発生した骨芽細胞腫の 1 例, 第 184 回日本口腔外科学会関東地方会プログラム抄録集, 18, 2007. (第 184 回日本口腔外科学会関東地方会, 東京) (1)臨検査

23. 伊藤哲平, 今井崇之, 桑山真寧, 瀬田修一, 高崎義人, 高野正行, 柿澤 卓 : インプラント埋入を目的とした自家骨移植についての臨床的検討, 日口腔科会誌 **57**(1), 171, 2008. (第 61 回日本口腔科学会総会, 神戸市)
24. 羽鳥友子, 藤田佳子, 桑山真寧, 瀬田修一, 高野正行, 柿澤 卓, 松坂賢一⁽¹⁾ : 上顎洞進展型嚢胞より発生したと考えられる扁平上皮癌, 第 26 回日本口腔腫瘍学会総会プログラム抄録集, 107, 2008. (第 26 回日本口腔腫瘍学会総会, 別府市) (1)臨検査
25. 松崎文頼⁽¹⁾, 関根秀志⁽¹⁾, 田口達夫⁽¹⁾, 瀬田修一, 福田謙一⁽²⁾, 平林剛⁽³⁾, 中浜典子⁽⁴⁾, 武田孝之⁽¹⁾, 安達 康⁽⁵⁾ : 下顎へのインプラント埋入時に採取した自家骨を上顎へ移植した症例, 日本口腔インプラント学会 第 27 回 関東・甲信越支部学術大会 プログラム・抄録集, 58, 2008. (第 27 回 関東・甲信越支部学術大会, 東京) (1)口健臨・口腔インプラント,(2)口健臨・歯麻,(3)水病・歯科技,(4)水病・歯科衛生士部,(5)口健臨・補綴
26. 瀬田修一, 椎貝達夫⁽¹⁾, 武田孝之⁽¹⁾, 飯島俊一⁽¹⁾, 松崎文頼⁽¹⁾, 田口達夫⁽¹⁾, 関根秀志⁽¹⁾, 秋元善次, 高崎義人, 高野正行, 柿澤 卓 : CT 画像診断によるインプラント埋入予定部位における骨量の臨床統計学的検討, 日口腔インプラント会誌 **21**(1), 257, 2008. (第 37 回日本口腔インプラント学会総会, 熊本市) (1)口健臨・口腔インプラント
27. 横山葉子, 高久 勇一郎, 高崎義人, 高野正行, 柿澤 卓, 浜瀬真紀⁽¹⁾, 野間弘康⁽¹⁾ : 健常日本人のオトガイ神経支配領域における感覚閾値に関する臨床的検討 - SW 検査, 二点識別閾検査と振動覚検査の基準値について -, 第 12 回口腔顔面神経機能学会プログラム抄録集, 11, 2008. (第 12 回口腔顔面神経機能学会, 東京) (1)口外
28. 浜瀬真紀⁽¹⁾, 高崎義人, 高木 多加志⁽¹⁾, 内山健志⁽¹⁾, 高野伸夫⁽¹⁾, 柴原孝彦⁽¹⁾ : 舌神経知覚障害に対する舌神経修復術について, 第 12 回口腔顔面神経機能学会総会プログラム抄録集, 14, 2008. (第 12 回 口腔顔面神経機能学会総会, 東京) (1)口外
29. 藤田佳子, 山村哲夫, 高崎義人, 高野正行, 柿澤 卓 : 下顎骨部分切除術に対して大耳介神経移植術を行った下歯槽神経知覚障害の長期経過観察例, 第 12 回口腔顔面神経機能学会総会プログラム抄録集, 15, 2008. (第 12 回口腔顔面神経機能学会総会, 東京)
30. 関根 亜理紗, 瀬田修一, 高崎義人, 高野正行, 柿澤 卓 : 下顎角形成術に伴う下歯槽神経麻痺の 3 症例, 第 12 回口腔顔面神経機能学会総会プログラム抄録集, 16, 2008. (第 12 回口腔顔面神経機能学会総会, 東京)

1. 口腔健康臨床科学講座 4) 歯科矯正学分野

論 文

1. Yokota,R., Mishiro,M., Abe,T., Miyake,A.⁽¹⁾, SHIINA,N.⁽²⁾, Sueishi,K., Yamaguchi,H.⁽²⁾ : Pressure on Anterior Region of Palate during Thumb-Sucking, Bull Tokyo Dental Coll **48**(2), 57~66, 2007. 原著 学位論文(甲) (1)神奈川県, (2)矯正
2. Takei,K., Sueishi,K., Yamaguchi,H.⁽¹⁾, Ohtawa,Y.⁽²⁾ : Dentofacial growth in patients with Sotos syndrome, Bull Tokyo Dental Coll **48**(2), 73~85, 2007. 症例 A05-0792-11 (1)矯正,(2)口健臨・小児歯
3. 金子幸生⁽¹⁾, 茂木悦子⁽¹⁾, 山口尊生⁽¹⁾, 山木貴子⁽¹⁾, 竹内史江⁽¹⁾, 野村真弓⁽¹⁾, 宮崎晴代, 平井基之⁽²⁾, 松田一朗⁽³⁾, 山口秀晴⁽¹⁾ : 8020 達成者の歯にみられた cervical lesion について, 歯科学報 **107**(3), 303~314, 2007. 原著 A-05-0590-4 生素研 (1)矯正,(2)東京都,(3)千葉県
4. 海老原 環, 末石研二, 高野正行⁽¹⁾, 柿澤 卓⁽¹⁾ : 上下顎同時移動手術を要した著しい骨格性顔面非対称症例の 2 治験例, 歯科学報 **107**(3), 336~348, 2007. 症例 (1)口健臨・口外
5. 小坂竜也, 石井武展⁽¹⁾, 金 熙勅⁽¹⁾, 横田麗子, 西井 康⁽¹⁾, 野嶋邦彦⁽¹⁾, 山口秀晴⁽¹⁾ : フォーサス FReD-DPR (ダイレクトプッシュロッド)を用いて Angle II 級の大臼歯関係を改善した 4 症例の臨床的検討, 歯科学報 **107**(4), 389~399, 2007. 臨床 (1)矯正
6. 椎名根子⁽¹⁾, 末石研二, 根岸史郎⁽¹⁾, 横田麗子, 堀江由規子, 山口秀晴⁽¹⁾ : 拇指吸引癖を有する患者における 頸部、口蓋部圧の測定, 歯科学報 **107**(6), 700~708, 2007. 原著 (1)矯正
7. Tahara,R.⁽¹⁾, Motegi,E.⁽¹⁾, Nomura,M.⁽¹⁾, Tsuchiya,Y.⁽²⁾, Shino,T., Inoue,E., Sueishi,K., Matsuda,I.⁽³⁾ : Curvature of cervical vertebra in 8020 achievers observed by lateral cephalogram, Bull Tokyo Dent Coll **49**(1), 15~21, 2008. 原著 A05-0590-4 (1)矯正,(2)栃木県,(3)千葉県
8. Sakamoto,T.⁽¹⁾, Sueishi,K., Miyazaki,H., Katada,H., Ebihara,T., Kosaka,T. : Clinical Statistical Investigation of Cleft Lip and Palate Patients Aged Over Years at Department of Orthodontics, Suidobashi Hospital,Tokyo Dental College, Bull Tokyo Dental Coll **49**(1), 33~39, 2008. 原著 (1)矯正

解 説

1. 小坂 肇⁽¹⁾, 小野恭介⁽¹⁾, 金子幸夫⁽¹⁾, 松山彩花⁽¹⁾, 小坂竜也 : 次世代審美ブラケットとしてのリン酸カルシウム系ブラケットの開発(1), 矯臨ジャーナル **23**(10), 41~49, 2007. (1)東京都
2. 小坂 肇⁽¹⁾, 小野恭介⁽¹⁾, 金子幸夫⁽¹⁾, 松山彩花⁽¹⁾, 小坂竜也 : 次世代審美ブラケットとしてのリン酸カルシウム系ブラケットの開発(2), 矯臨ジャーナル **23**(11), 87~97, 2007. (1)東京都
3. 小坂 肇⁽¹⁾, 小野恭介⁽¹⁾, 金子幸夫⁽¹⁾, 松山彩花⁽¹⁾, 小坂竜也 : 次世代審美ブラケットとしてのリン酸カルシウム系ブラケットの開発(3), 矯臨ジャーナル **23**(12), 85~93, 2007. (1)東京都

単行図書

1. 歯科矯正学教室 編⁽¹⁾編, 山口秀晴⁽¹⁾編集, 宮崎晴代^(e), 海老原環^(a), 小坂竜也^(f): 著分担 : 知ってほしい歯科矯正治療の基本 (a)クワドヘリックス・バイヘリックス 162~164 頁, (b)先天異常、症候群 254~260 頁, (c)指しゃぶり圧 296~298 頁, (d)正常な咬合関係とその歯科矯正学的表現 315~320 頁, (e)保定 321~325 頁, (f)機能検査 24~26 頁, わかば出版, 東京, 2007. (1)矯正

その他

1. 宮崎晴代 : ”見せる矯正歯科治療”の時代へー「ブレースマイルコンテスト」ー, Quintessence 臨床家のための矯正 YEAR BOOK'07, 180~183, 2007.
2. 小坂竜也 : 自家歯牙移植を併用した上顎複数歯欠損症例, Quintessence 臨床家のための矯正 YEAR BOOK'07, 198~208, 2007.

学会抄録

1. 江里口 雅⁽¹⁾, 中野洋子⁽¹⁾, 末石研二, 坂本輝雄⁽²⁾, 山口秀晴⁽²⁾, 高野伸夫⁽¹⁾, 内山健志⁽¹⁾, 柴原孝彦⁽¹⁾ : 二段階口蓋形成術と歯科矯正治療を施行した片顎完全唇顎口蓋裂患者の口蓋発育と咬合, 日口蓋裂会誌 **32**(2), 208, 2007. (第 31 回日本口蓋裂学会総会・学術集会, 群馬県吾妻郡) (1)口外,(2)矯正
2. 末石研二, 鶴木祥子, 海老原 環, 林 正樹, 宮崎晴代 : 18 歳以上で矯正歯科に来院した唇顎口蓋裂患者の病像について, 日口蓋裂会誌 **32**(2), 238, 2007. (第 31 回日本口蓋裂学会総会・学術集会, 群馬県吾妻郡)
3. 川端薫子, 宮崎晴代, 末石研二 : 口唇口蓋裂児の歯科疾患罹患状況について, 歯科学報 **107**(2), 236, 2007. (第 283 回東京歯科大学学会(例会), 千葉市)
4. 柿澤 卓⁽¹⁾, 高野正行⁽¹⁾, 高崎義人⁽¹⁾, 横山葉子⁽¹⁾, 今井崇之⁽¹⁾, 桑山真寧⁽¹⁾, 関根 亜理紗⁽¹⁾, 渡辺玲子⁽¹⁾, 海老原 環, 林 正樹, 宮崎晴代, 末石研二 : 複雑な顎変形症に対する実体石膏顎骨モデルを用いた手術計画, 日顎変形会誌 **17**(2), 146, 2007. (第 19 回日本顎変形症学会総会, 新潟市) (1)口健臨・口外
5. 海老原 環, 林 正樹, 宮崎晴代, 末石研二, 今井崇之⁽¹⁾, 秋元善次⁽¹⁾, 横山葉子⁽¹⁾, 山 満⁽²⁾, 高野正行⁽¹⁾ : 上下顎同時移動手術を要した著しい骨格性下顎前突症・顔面非対称症例の 2 治験例, 日顎変形会誌 **17**(2), 167, 2007. (第 17 回日本顎変形症学会総会, 新潟市) (1)口健臨・口外,(2)口健臨・歯放
6. 渡辺玲子⁽¹⁾, 柿澤 卓⁽¹⁾, 高野正行⁽¹⁾, 高崎義人⁽¹⁾, 横山葉子⁽¹⁾, 瀬田修一⁽¹⁾, 桑山真寧⁽¹⁾, 末石研二, 海老原 環 : 術後治療中断期間中に著名なあと戻りを来した 3 症例, 日顎変形会誌 **17**(2), 167, 2007. (第 19 回日本顎変形症学会総会, 新潟市) 脳科学研 (1)口健臨・口外
7. 西井 康⁽¹⁾, 篠 珠美, 伊達彩乃⁽¹⁾, 高木 多加志⁽²⁾, 山口秀晴⁽¹⁾, 柴原孝彦⁽²⁾ : 外科的急速拡大を施行した上顎歯列弓狹窄症例, 日顎変形会誌 **17**(2), 180, 2007. (第 17 回日本顎変形症学会総会, 新潟市) (1)矯正,(2)口外
8. 坂本輝雄⁽¹⁾, 篠 珠美, 櫻井雄太⁽¹⁾, 山口秀晴⁽¹⁾, 須賀 賢一郎⁽²⁾, 内山健志⁽²⁾ : コルチコトミーを併用した両側性臼歯部シザースパイトを伴う過蓋咬合症例, 日顎変形会誌 **17**(2), 183, 2007. (第 17 回日本顎変形症学会総会, 新潟市) (1)矯正,(2)口外

9. 小坂竜也, 野嶋邦彦⁽¹⁾, 末石研二⁽¹⁾, 山口秀晴⁽¹⁾ : エッジワイズ装置治療中に呈した Angle2 級大臼歯関係をフォーサスにより改善した 4 症例, 東京矯歯会誌 **17**(2), 124, 2007. (第 66 回東京矯正歯科学会, 東京都) (1)矯正
10. 井上恵実, 川端薫子, 篠 珠美, 竹井邦夫, 海老原 環, 宮崎晴代, 末石研二, 辻野啓一郎⁽¹⁾, 望月清志⁽¹⁾ : 東京歯科大学水道橋病院矯正歯科における Temporary Anchorage Device に関する臨床実態調査, 第 66 回日本矯正歯科学会大会プログラム・抄録集, 171, 2007. (第 66 回日本矯正歯科学会大会, 大阪市) (1)口健臨・小児歯
11. 末石研二, 川端薫子, 篠 珠美, 井上恵実, 竹井邦夫, 小坂竜也, 海老原 環, 宮崎晴代 : 先天性疾患を伴う矯正治療患者の臨床統計的調査-唇顎口蓋裂以外の疾患を伴う患者について-, 第 66 回日本矯正歯科学会大会プログラム・抄録集, 211, 2007. (第 66 回日本矯正歯科学会大会, 大阪市) A05-0792-11
12. 宮崎晴代, 末石研二, 横山葉子⁽¹⁾, 柿澤 卓⁽¹⁾ : 外科手術を併用した gingival hyperplasia の矯正治療例, 第 66 回日本矯正歯科学会大会プログラム・抄録集, 233, 2007. (第 66 回日本矯正歯科学会大会, 大阪市) (1)口健臨・口外
13. 日野原 朱⁽¹⁾, 伊達彩乃⁽¹⁾, 金 成暢⁽¹⁾, 東郷聡司⁽¹⁾, 藤本 かな子, 堀江由規子, 渡邊仁美⁽¹⁾, 片田英憲⁽¹⁾, 茂木悦子⁽¹⁾ : 卒後研修課程第 30 期生による症例展示 リテンションケース, 第 66 回日本矯正歯科学会大会プログラム・抄録集, 243, 2007. (第 66 回日本矯正歯科学会大会, 大阪市) (1)矯正
14. 伊達彩乃⁽¹⁾, 金 成暢⁽¹⁾, 東郷聡司⁽¹⁾, 日野原 朱⁽¹⁾, 藤本 かな子, 堀江 由規子, 渡邊仁美⁽¹⁾, 片田英憲⁽¹⁾, 茂木悦子⁽¹⁾ : 卒後研修課程第 30 期生による症例展示 , 第 66 回日本矯正歯科学会大会プログラム・抄録集, 244, 2007. (第 66 回日本矯正歯科学会大会, 大阪市) (1)矯正
15. 夫馬 明日香⁽¹⁾, 深川裕子⁽¹⁾, 加納将貴⁽¹⁾, 勝村 麗⁽¹⁾, 宮谷 真理子⁽¹⁾, 宮崎晴代, 野村真弓⁽¹⁾, 茂木悦子⁽¹⁾, 岡野 繁⁽²⁾, 松田一朗⁽³⁾ : 8020 達成者における口腔内石膏模型の三次元画像計測を用いた加齢様相の検討 -第 2 報- 近遠心的傾斜角度, 歯科学報 **107**(4), 86, 2007. (第 284 回東京歯科大学学会(総会), 千葉市) A05-590-4 保情研 (1)矯正,(2)研究機器管理部,(3)千葉県
16. 江里口 雅⁽¹⁾, 中野洋子⁽¹⁾, 末石研二, 坂本輝雄⁽²⁾, 山口秀晴⁽²⁾, 高野伸夫⁽¹⁾, 内山健志⁽¹⁾, 柴原孝彦⁽¹⁾ : 二段階口蓋形成術と歯科矯正治療を施行した片側完全唇顎口蓋裂患者の口蓋発育と咬合, 歯科学報 **107**(4), 464, 2007. (第 284 回東京歯科大学学会(総会), 千葉市) (1)口外,(2)矯正
17. 伊達彩乃⁽¹⁾, 金 成暢⁽¹⁾, 東郷聡司⁽¹⁾, 日野原 朱⁽¹⁾, 藤本 かな子, 堀江 由規子, 渡邊仁美⁽¹⁾, 片田英憲⁽¹⁾, 茂木悦子⁽¹⁾ : 卒後研修課程第 30 期生による症例展示, 歯科学報 **107**(4), 465, 2007. (第 284 回東京歯科大学学会(総会), 千葉市) (1)矯正
18. 日野原 朱⁽¹⁾, 伊達彩乃⁽¹⁾, 金 成暢⁽¹⁾, 東郷聡司⁽¹⁾, 藤本 かな子, 堀江 由規子, 渡邊仁美⁽¹⁾, 片田英憲⁽¹⁾, 茂木悦子⁽¹⁾ : 卒後研修課程第 30 期生による症例展示 リテンションケース, 歯科学報 **107**(4), 465, 2007. (第 284 回東京歯科大学学会(総会), 千葉市) (1)矯正
19. 深川裕子⁽¹⁾, 夫馬 明日香⁽¹⁾, 加納将貴⁽¹⁾, 勝村 麗⁽¹⁾, 阿部 友里子⁽¹⁾, 宮崎晴代, 野村真弓⁽¹⁾, 茂木悦子⁽¹⁾, 岡野 繁⁽²⁾, 松田一朗⁽³⁾ : 8020 達成者における口腔内石膏模型の三次元画像計測を用いた加齢様相の検討 -第 3 報- 唇頬舌的傾斜角度, 歯科学報 **107** (4), 87, 2007. (第 284 回東京歯科大学学会(総会), 千葉市) A-05-590-4 保情研 (1)矯正,(2)研究機器管理部,(3)千葉県

20. 深川裕子⁽¹⁾, 夫馬 明日香⁽¹⁾, 加納将貴⁽¹⁾, 野村真弓⁽¹⁾, 茂木悦子⁽¹⁾, 勝村 麗⁽¹⁾, 阿部 友里子⁽¹⁾, 宮崎晴代, 岡野 繁⁽²⁾, 松田一朗⁽³⁾: 三次元画像を用いた 8020 達成者の歯、歯列弓の評価 第 3 報 歯冠の唇頬舌的傾斜角度, 第 66 回日本矯正歯科学会大会プログラム・抄録集, 108, 2007. (第 66 回日本矯正歯科学会, 大阪市) A05-590-4 保情研 (1)矯正,(2)研究機器管理部,(3)松田歯科医院
21. 夫馬 明日香⁽¹⁾, 深川裕子⁽¹⁾, 加納将貴⁽¹⁾, 野村真弓⁽¹⁾, 茂木悦子⁽¹⁾, 勝村 麗⁽¹⁾, 宮谷 真理子⁽¹⁾, 宮崎晴代, 岡野 繁⁽²⁾, 松田一朗⁽³⁾: 三次元画像を用いた 8020 達成者の歯、歯列弓形態の評価 第 2 報 近遠心的傾斜角度, 第 66 回日本矯正歯科学会大会プログラム・抄録集, 108, 2007. (第 66 回日本歯科矯正学会大会, 大阪市) A-05-590-4 (1)矯正,(2)研究機器管理部,(3)千葉市
22. 茂木悦子⁽¹⁾, 野村真弓⁽¹⁾, 渡邊仁美⁽¹⁾, 堀江 由規子, 坂本輝雄⁽¹⁾, 宮谷 真理子⁽²⁾, 牧村美紀⁽²⁾: 多数歯先天欠如をともなう若年不正咬合 2 症例の報告, 第 66 回日本矯正歯科学会大会プログラム・抄録集, 215, 2007. (第 66 回日本矯正歯科学会大会, 大阪市) (1)矯正,(2)東歯大・矯正

1. 口腔健康臨床科学講座 5) 小児歯科学分野

論 文

1. Takei,K.⁽¹⁾, Sueishi,K.⁽¹⁾, Yamaguchi,H.⁽²⁾, Ohtawa,Y. : Dentofacial growth in patients with Sotos syndrome, Bull Tokyo Dental Coll **48**(2), 73~85, 2007. 症例 (1)口健臨・矯正,(2)矯正
2. Mochizuki,K., Tsujino,K., Ohtawa,Y., Yakushiji,M.⁽¹⁾, Nomura,K.⁽²⁾, Ichinohe,T.⁽²⁾, Kaneko,Y.⁽²⁾ : Dental care for physically or mentally challenged at public dental clinics, Bull Tokyo Dent Coll **48**(3), 135~142, 2007. 臨床 (1)小児歯,(2)歯麻
3. Kubo,S., Shigeta,Y.⁽¹⁾, Ogawa,T.⁽¹⁾, Wakoh,M.⁽²⁾, Sano,T.⁽²⁾, Fukushima,S.⁽¹⁾, Yakushiji,M.⁽³⁾ : CT image applications for pre-surgical assessment and surgical pre-planning in Pediatric Dentistry, Stud Health Tech Informat **132**, 222~224, 2008. 臨床 (1)鶴見大・歯・歯補綴2,(2)歯放,(3)小児歯
4. Mochizuki,K., Mochizuki,M.⁽¹⁾, Kobayashi,M.⁽²⁾, Tsujino,K., Ohtawa,Y., Yakushiji,M.⁽³⁾ : Four fused incisors in the maxillary and mandibular primary dentitions, Ped Dent J **18**(1), 64~69, 2008. 症例 (1)神奈川県,(2)埼玉県,(3)小児歯
5. 辻野 啓一郎, 坪倉 亜希子⁽¹⁾, 金子 かおり, 望月清志, 大多和 由美, 薬師寺 仁⁽²⁾ : 大学病院小児歯科来院患者の定期健診に関する意識調査, 小児歯誌 **46**(1), 26~32, 2008. 原著 (1)東京都,(2)小児歯

学会抄録

1. 宮里裕美⁽¹⁾, 米津卓郎⁽¹⁾, 辻野 啓一郎, 薬師寺 仁⁽¹⁾ : 最近の小児に対する側方歯群の予測精度について, 小児歯誌 **45**(2), 220, 2007. (第45回日本小児歯科学会大会および総会, 東京) (1)小児歯
2. 井上恵実⁽¹⁾, 川端薫子⁽¹⁾, 篠 珠美⁽¹⁾, 竹井邦夫⁽¹⁾, 海老原環⁽¹⁾, 宮崎晴代⁽¹⁾, 末石研二⁽¹⁾, 辻野 啓一郎, 望月清志 : 東京歯科大学水道橋病院矯正歯科における Temporary Anchorage Device に関する臨床実態調査, 第66回日本矯正歯科学会大会プログラム・抄録集, 171, 2007. (第66回日本矯正歯科学会大会, 大阪市) (1)口健臨・矯正
3. 大多和 由美, 林 佐智代⁽¹⁾, 大森 勇市郎⁽²⁾, 大峰浩隆⁽³⁾, 妻鹿純一⁽¹⁾, 村居幸夫⁽²⁾, 志賀正三⁽²⁾ : 地域障害者歯科医療センターの現況と今後の方向について, 障害者歯 **28**(3), 262, 2007. (第24回日本障害者歯科学会大会および総会, 長崎市) (1)日大・松戸歯・障害者歯,(2)茨城県,(3)日大・松戸歯・顎口外
4. 辻野 啓一郎, 望月清志, 大多和 由美, 末石研二⁽¹⁾, 薬師寺 仁⁽²⁾ : 乳歯および永久歯の多数歯先天性欠如と口唇口蓋裂を伴う先天性甲状腺機能低下症(クレチン症)児の1例, 障害者歯 **28**(3), 314, 2007. (第24回日本障害者歯科学会総会および学術大会, 長崎市) (1)口健臨・矯正,(2)小児歯
5. Kubo,S., Shigeta,Y.⁽¹⁾, Ogawa,T.⁽¹⁾, Wakoh,M.⁽²⁾, Sano,T.⁽²⁾, Fukushima,S.⁽¹⁾, Yakushiji,M.⁽³⁾ : CT image applications for pre-surgical assessment and surgical pre-planning in Pediatric Dentistry, The 16th Annual Medicine meets virtual reality conference COURSE SYLLABUS, 55, 2008. (The 16th Annual Medicine meets virtual reality conference, California,USA) (1)鶴見大・歯・歯補綴2,(2)歯放,(3)小児歯

1. 口腔健康臨床科学講座 6) 歯科麻酔学分野

論 文

1. 笠原正貴, 福田謙一, 一戸達也⁽¹⁾, 高北義彦, 金子 譲⁽¹⁾: 星状神経節ブロック施行後後頸部において著しい血腫をきたした1例, 日歯麻会誌 **35**(2), 258~259, 2007. 症例 (1)歯麻
2. 福田謙一, 齋田 菜緒子, 谷田部 純子, 飯田和美, 笠原正貴, 高北義彦, 一戸達也⁽¹⁾, 金子 譲⁽¹⁾: 下顎孔伝達麻酔施行直後に局所麻酔薬中毒発症が疑われた1症例, 日歯麻会誌 **35**(5), 699~700, 2007. 症例 (1)歯麻
3. 齋田 菜緒子, 福田謙一, 金子完子⁽¹⁾, 高北義彦, 一戸達也⁽²⁾, 金子 譲⁽²⁾: 喘息重積発作を繰り返していた歯科恐怖症患者の1日帰り全身麻酔経験, 日歯麻会誌 **35**(2), 276~277, 2007. 症例 (1)墨東病院・歯口外,(2)歯麻
4. 湯村潤子⁽¹⁾, 高北義彦, 剣持正浩⁽¹⁾, 宮尾 真理子, 半田 麻里子, 福田謙一, 一戸達也⁽¹⁾, 金子 譲⁽¹⁾: Flexible laryngeal mask airway 抜去直後の咳嗽反射によって誘発された過換気症候群の1症例, 日歯麻会誌 **35**(5), 701~702, 2007. 症例 (1)歯麻
5. 平山 明⁽¹⁾, 福田謙一, 齋田 菜緒子, 杉山 あや子⁽²⁾, 金子完子⁽²⁾, 高北義彦, 一戸達也⁽³⁾, 金子 譲⁽³⁾: 認知症患者のプロポフォールによる反復全身麻酔経験, 日歯麻会誌 **35**(5), 703~704, 2007. 症例 (1)千葉県,(2)墨東病院・歯口外,(3)歯麻
6. 笠原正貴, 梅安理絵⁽¹⁾, 高北義彦, 福田謙一, 一戸達也⁽¹⁾, 金子 譲⁽¹⁾: 星状神経節ブロック施行期間中に発見された全身麻酔後喉頭肉芽腫の1例, 日歯麻会誌 **35**(5), 709~710, 2007. 症例 (1)歯麻
7. 宮尾 真理子, 高北義彦, 笠原正貴, 福田謙一, 一戸達也⁽¹⁾, 金子 譲⁽¹⁾: 下顎前突症患者における術前不安の検討—下顎枝矢状分割術と金属固定板除去術との比較—, 日歯麻会誌 **36**(1), 38~41, 2008. 臨床 (1)歯麻

解 説

1. 林田眞和⁽¹⁾, 福田謙一, 福永敦翁⁽²⁾, 花岡一雄⁽³⁾: アデノシン化合物と痛み, Anesthesia **9**(2), 62~67, 2007. (1)埼玉医大・国際医療センター麻酔科,(2)UCLA,(3)JR 東京総合病院・麻酔科
2. 笠原正貴: 中医臨床における痛みの治療—『傷寒雑病論』から痛みを考える—, 日中医学 **22**(4), 41~43, 2007.
3. 林田眞和⁽¹⁾, 福田謙一, 池田和隆⁽²⁾: ゲノムペインクリニック時代へ向けて—その 2—, ペインクリニック **28**(11), 1451~1452, 2007. (1)埼玉医大・国際医療センター麻酔科,(2)東京都精神医学総合研究所精神生物学研究分野

単行図書

1. 福田謙一(a),(b): 著分担 :シナリオで学ぶチュートリアル歯科麻酔 (a)Unit13 口腔領域の神経疾患と治療(ペインクリニック)シナリオ 13-1「痛み止めが効かない痛み?」193~196 頁,(b)Unit13 口腔領域の神経疾患と治療(ペインクリニック)症例「帯状疱疹後神経痛」P212~212 212 頁, 医歯薬出版, 東京, 2007.

2. 福田謙一(a): 著分担 :そこが知りたい!日常臨床のテクニック Q&A (a)口腔外科 3. 抜歯後に痛みが出ない鎮痛薬の飲み方について教えて下さい 118~119 頁, デンタルダイヤモンド社, 東京, 2007.
3. 笠原正貴: 著分担 :歯界展望 別冊 歯科の薬が分かる本 2008 (a)1 章-8 歯科で漢方薬が有効なケースは? 28~30 頁,(b)3 章-9 舌痛症に有効なくすりにはどのようなものがありますか? 88~89 頁,(c)歯科で使用する主な漢方薬一覧 180~184 頁, 医歯薬出版, 東京, 2007.

その他

1. 福田謙一 : 口・歯の痛み, マイドクター「痛み!」の最強ドクター128人, 54~57, 2008.

学会抄録

1. 福田謙一 : リラックス歯科治療外来の現況, 第 6 回 東京歯科大学水道橋病院 症例報告会 プログラム・抄録集, 7, 2007. (第 6 回 東京歯科大学水道橋病院 症例報告会, 東京)
2. 齋田 菜緒子, 半田 麻里子, 笠原正貴, 福田謙一 : 喘息重積発作を繰り返していた歯科恐怖症患者の全身麻酔経験, 第 6 回 東京歯科大学水道橋病院 症例報告会 プログラム・抄録集, 13, 2007. (第 6 回 東京歯科大学水道橋病院 症例報告会 2007.4.12, 東京)
3. 笠原正貴 : 海外医療援助の報告一口唇口蓋裂手術・ミャンマー連邦国一, 第 6 回 東京歯科大学水道橋病院症例報告会 プログラム・抄録集, 15, 2007. (第 6 回 東京歯科大学水道橋病院 症例報告会 2007.4.12, 東京)
4. 寺川由比⁽¹⁾, 半田 麻里子, 一戸達也⁽¹⁾, 金子 譲⁽¹⁾ : 局所麻酔薬添加のエピネフリンは星状神経節ブロック時の粘膜血流量増加を相殺する, 歯科学報 **107**(2), 74, 2007. (第 283 回東京歯科大学学会 (例会), 千葉市) 実動施設 (1)歯麻
5. 田口達夫⁽¹⁾, 関根秀志⁽¹⁾, 松崎文頼⁽¹⁾, 山上美樹⁽²⁾, 飯島俊一⁽¹⁾, 椎貝達夫⁽¹⁾, 武田孝之⁽¹⁾, 福田謙一, 笠原正貴, 齋田 菜緒子, 半田 麻里子 : 新しい生体モニターを用いてインプラント埋入を行った症例, 歯科学報 **107**(2), 240, 2007. (第 283 回東京歯科大学学会 (例会), 千葉市) (1)口健臨・口腔インプラント,(2)口健臨・補綴
6. 半田 麻里子, 折井 亮⁽¹⁾, 坊垣昌彦⁽¹⁾, 北村亨之⁽¹⁾, 齋藤 勇一郎⁽¹⁾, 山田芳嗣⁽¹⁾ : 生体肝移植レシピエントの周術期において瞳孔不同を認めた 2 症例, J Anesth **21**(Suppl), 159, 2007. (日本麻酔科学会第 54 回学術集会 2007.5.31~6.2, 札幌市) CD-ROM 日本麻酔科学会第 54 回学術集会 プログラム・抄録 脳科学研 (1)東大・医学部付属病院麻酔科・痛みセンター
7. 湯村潤子⁽¹⁾, 高北義彦, 福田謙一, 一戸達也⁽¹⁾, 金子 譲⁽¹⁾ : Flexible Laryngeal Mask Airway (FLMA) 挿入時のプロポフォール予測効果部位濃度とフェンタニルの効果, PHARMACOANESTHESIOLOG **19**(2), 28, 2007. (日本麻酔・薬理学会 第 29 回学術大会, 名古屋市) (1)歯麻
8. 大串圭太, 宮尾 真理子, 半田 麻里子, 笠原正貴, 福田謙一, 高北義彦, 一戸達也⁽¹⁾, 金子 譲⁽¹⁾ : 漢方薬の副作用によって、手術室入室後に異常高血圧をきたし手術を中止をした一症例, 第 24 回関東臨床歯科麻酔懇話会(日本歯科麻酔学会関東地方会)プログラム, 5, 2007. (第 24 回関東臨床歯科麻酔懇話会(日本歯科麻酔学会関東地方会), 東京) (1)歯麻

9. 朝波志穂, 大串圭太, 大坪有子, 宮尾 真理子, 半田 麻里子, 齋田 菜緒子, 笠原正貴, 福田謙一, 高北義彦, 山 満⁽¹⁾, 瀬田修一⁽²⁾, 秋元善次⁽²⁾, 横山葉子⁽²⁾, 高崎義人⁽²⁾, 高野正行⁽²⁾, 柿澤 卓⁽²⁾, 一戸達也⁽³⁾, 金子 譲⁽³⁾ : 1997年1月~2007年6月までの10年6ヵ月間における東京歯科大学水道橋病院での顎変形手術の臨床統計, 歯科学報 **107**(4), 454, 2007. (第284回東京歯科大学学会(総会), 千葉市) (1)口健臨・歯放,(2)口健臨・口外,(3)歯麻
10. 平山 明⁽¹⁾, 齋藤 浩⁽¹⁾, 西内千明⁽¹⁾, 岩城 順⁽¹⁾, 小川育弘⁽¹⁾, 新井泰子⁽¹⁾, 武井祐一⁽¹⁾, 村田洋之⁽¹⁾, 前川達夫⁽¹⁾, 山崎 優⁽¹⁾, 小峰久直⁽¹⁾, 片岡幹郎⁽¹⁾, 宍倉邦明⁽¹⁾, 出川博美⁽²⁾, 小川磨美⁽²⁾, 福田謙一, 一戸達也⁽³⁾, 金子 譲⁽³⁾ : 当市歯科医師会会員の障害者診療に対する意識調査 全員 441名に対するアンケート回答から, 障害者歯 **28**(3), 361, 2007. (第24回日本障害者歯科学会総会および学術大会, 長崎市) (1)千葉市歯科医師会,(2)(財)千葉市休日救急診療所,(3)歯麻
11. 半田 麻里子, 齋田 菜緒子, 笠原正貴, 福田謙一, 望月清志⁽¹⁾, 一戸達也⁽²⁾, 金子 譲⁽²⁾ : 高インスリンー高アンモニア血症症候群患者の歯科治療における日帰り全身麻酔経験, 障害者歯 **28**(3), 467, 2007. (第24回日本障害者歯科学会総会および学術大会, 長崎市) 脳科学研 (1)口健臨・小児歯,(2)歯麻
12. 半田 麻里子, 高北義彦, 湯村潤子⁽¹⁾, 福田謙一, 一戸達也⁽¹⁾, 金子 譲⁽¹⁾ : プロポフォル麻酔下の flexible laryngeal mask airway 挿入に対するレミフェンタニルの応用, 日歯麻会誌 **35**(4), 534, 2007. (第35回 日本歯科麻酔学会総会・学術集会, 北九州市) (1)歯麻
13. 大川恵子⁽¹⁾, 福田謙一, 笠原正貴, 高北義彦, 一戸達也⁽¹⁾, 金子 譲⁽¹⁾ : 硬膜外麻酔施行後の下肢麻痺の訴えが、解離性障害によるものであった1症例, 日歯麻会誌 **35**(4), 566, 2007. (第35回 日本歯科麻酔学会総会・学術集会, 北九州市) (1)歯麻
14. 福田謙一, 齋田 菜緒子, 平山 明⁽¹⁾, 杉山 あや子⁽²⁾, 金子完子⁽²⁾, 高北義彦, 一戸達也⁽³⁾, 金子 譲⁽³⁾ : プロポフォル静脈麻酔における少量ケタミン併用の効果, 日歯麻会誌 **35**(4), 585, 2007. (第35回 日本歯科麻酔学会総会・学術集会, 北九州市) (1)千葉県,(2)墨東病院・歯口外,(3)歯麻
15. 笠原正貴, 高北義彦, 福田謙一, 一戸達也⁽¹⁾, 金子 譲⁽¹⁾ : 経鼻挿管時の循環反応と BIS に対する esmolol の効果, 日歯麻会誌 **35**(4), 589, 2007. (第35回 日本歯科麻酔学会総会・学術集会, 北九州市) (1)歯麻
16. 庵原義明⁽¹⁾, 笠原正貴, 高北義彦, 宮尾真理子, 福田謙一, 一戸達也⁽²⁾, 金子 譲⁽²⁾ : 歯科恐怖症患者の術前不安度の検討ー下顎枝矢状分割術施行患者と比較してー, 日歯麻誌 **35**(4), 591, 2007. (第35回 日本歯科麻酔学会総会・学術集会, 北九州市) (1)静岡県,(2)歯麻
17. 宮尾真理子, 高北義彦, 笠原正貴, 福田謙一, 一戸達也⁽¹⁾, 金子 譲⁽¹⁾ : 下顎前突症患者の術前不安についてー下顎枝矢状分割術とプレート除去術との比較ー, 日歯麻会誌 **35**(4), 591, 2007. (第35回 日本歯科麻酔学会総会・学術集会, 北九州市) (1)歯麻
18. 齋田 菜緒子, 福田謙一, 宮尾 真理子, 半田 麻里子, 笠原正貴, 高北義彦, 金子完子⁽¹⁾, 一戸達也⁽²⁾, 金子 譲⁽²⁾ : リラックス歯科治療外来における長時間外来全身麻酔 20 症例, 日歯麻会誌 **35**(4), 617, 2007. (第35回 日本歯科麻酔学会総会・学術集会, 北九州市) (1)墨東病院・歯口外,(2)歯麻

19. 福田謙一, 林田眞和⁽¹⁾, 池田和隆⁽²⁾, 宮尾 真理子, 半田 麻里子, 齋田 菜緒子, 笠原正貴, 高北義彦, 一戸達也⁽³⁾, 金子 譲⁽³⁾ : 心理的要因が術後痛及び鎮痛薬使用量に影響するか, 第 8 回口腔顔面痛学会 第 12 回 Japan Academy of Orofacial Pain 共催学術集会プログラム, 35, 2007. (第 8 回口腔顔面痛学会 第 12 回 Japan Academy of Orofacial Pain 共催学術集会, 松本市) (1)埼玉医大・国際医療センター麻酔科,(2)東京都精神医学総合研究所,(3)歯麻

1. 口腔健康臨床科学講座 7) 口腔インプラント学分野

論文

1. Sekine,H., Taguchi,T., Seta,S.⁽¹⁾, Takano,M.⁽¹⁾, takeda,t., Kakizawa,T.⁽¹⁾ : Dental Impant Treatment with Different Techniques for Sinus Floor Elevation-A Case Report, Bull Tokyo Dent Coll **48**(2), 87~91, 2007. 原著 (1)口健臨・口外

学会抄録

1. 田口達夫, 関根秀志, 松崎文頼, 山上美樹⁽¹⁾, 飯島俊一, 椎貝達夫, 武田孝之, 福田謙一⁽²⁾, 笠原正貴⁽²⁾, 齋田 菜緒子⁽²⁾, 半田 麻里子⁽²⁾ : 新しい生体モニター用いてインプラント埋入手術を行った症例, 歯科学報 **107**(2), 240, 2007. (第 283 回 東京歯科大学学会(例会), 千葉市) (1)口健臨・補綴,(2)口健臨・歯麻
2. 栗田麗⁽¹⁾, 大貫智宏⁽¹⁾, 永島 絵梨奈⁽¹⁾, 松崎文頼, 山本るみ⁽¹⁾, 神崎英行⁽¹⁾, 小林 麻衣子⁽¹⁾, 古屋克典⁽¹⁾, 山上美樹⁽¹⁾, 金井由起⁽¹⁾, 三宅 菜穂子⁽¹⁾, 田口達夫, 堀田宏巳⁽¹⁾, 関根秀志, 安達 康⁽¹⁾ : タレット機構を装備するサバイヤーの活用性についての報告-第 2 報-, 日補綴歯会誌 **50**(第 116 回特別号), 115, 2007. (第 116 回日本補綴歯科学会学術大会, 神戸市) A06-0792-2 (1)口健臨・補綴
3. Sekine,H. : The role fo pressoreceptive information form periodontal ligament, The 6th Annual Meeting fo Pan-Pacific Implant Society, 24, 2007. (The 6th Annual Meeting fo Pan-Pacific Implant Society, Fukuoka)
4. 大貫智宏⁽¹⁾, 関根秀志, 平林剛⁽²⁾, 磯山素子⁽³⁾, 安達 康⁽¹⁾ : 下顎無歯顎にインプラント埋入後,即時負荷を行い咬合回復した症例, 日本口腔インプラント学会 第 27 回 関東・甲信越支部学術大会 プログラム・抄録集, 58, 2008. (第 27 回日本口腔インプラント学会 関東・甲信越支部学術大会, 東京) (1)口健臨・補綴,(2)水病・歯科技,(3)水病・歯科衛生士部
5. 松崎文頼, 関根秀志, 田口達夫, 瀬田修一⁽¹⁾, 福田謙一⁽²⁾, 平林剛⁽³⁾, 中浜典子⁽⁴⁾, 武田孝之, 安達 康⁽⁵⁾ : 下顎へのインプラント埋入時に採取した自家骨を上顎へ移植した症例, 日本口腔インプラント学会 第 27 回 関東・甲信越支部学術大会 プログラム・抄録集, 58, 2008. (第 27 回 関東・甲信越支部学術大会, 東京都) (1)口健臨・口外, (2)口健臨・歯麻,(3)水病・歯科技,(4)水病・歯科衛生士部,(5)口健臨・補綴
6. 瀬田修一⁽¹⁾, 椎貝達夫, 武田孝之, 飯島俊一, 松崎文頼, 田口達夫, 関根秀志, 秋元善次⁽¹⁾, 高崎義人⁽¹⁾, 高野正行⁽¹⁾, 柿澤 卓⁽¹⁾ : CT 画像診断によるインプラント埋入予定部位における骨量の臨床統計的検討, 日口腔インプラント会誌 **21**(1), 257, 2008. (第 37 回 日本口腔インプラント学会総会・学術大会, 熊本市) (1)口健臨・口外
7. 松崎文頼, 関根秀志, 田口達夫, 安達 康⁽¹⁾ : 義歯床によるリップサポートの顔貌への影響について, 日口腔インプラント会誌 **21**(1), 262, 2008. (第 37 回 日本口腔インプラント学会総会・学術大会, 熊本市) (1)口健臨・補綴
8. 関根秀志, 田口達夫, 松崎文頼, 山上美樹⁽¹⁾, 神崎英行⁽¹⁾, 小林 麻衣子⁽¹⁾, 古屋克典⁽¹⁾ : 下顎臼歯部へのインプラント治療により神経症状を生じた一例, 第 12 回 口腔顔面神経機能学会総会 プログラム・抄録, 22, 2008. (第 12 回 口腔顔面神経機能学会総会, 東京) (1)口健臨・補綴

1. 口腔健康臨床科学講座 8) 総合歯科学分野

論 文

1. 有泉祐吾⁽¹⁾, 吉田 隆⁽²⁾, 山口 恵⁽³⁾, 田野ルミ⁽³⁾, 古澤成博, 高久 悟⁽³⁾, 田中丸 治宣⁽¹⁾, 槇石武美⁽²⁾: 歯科衛生士教育における学外臨床実習 特に診療補助実習について, 日歯医教会誌 **23**(2), 168~175, 2007. 臨床
(1)静岡県立短大・歯科衛生学科,(2)口健臨・保存,(3)埼玉県立大・保健医療福祉学部・健康開発学科口腔保健学専攻
2. 吉田 隆⁽¹⁾, 有泉裕吾⁽²⁾, 田野ルミ⁽¹⁾, 細川壮平, 小貫瑞穂, 大迫美穂, 古澤成博, 槇石武美⁽³⁾: 歯科衛生士教育機関における診療補助実習ー第 3 報 臨床実習における保存処置についてー, 日歯保存誌 **51**(1), 72~81, 2008. 原著 (1)埼玉県立大・保健医療福祉学部・健康開発学科口腔保健学専攻,(2)静岡県立大・短大部・歯科衛生,(3)口健臨・保存

学会抄録

1. 細川壮平, 古澤成博, 青嶋千緒実⁽¹⁾, 津村恒平⁽²⁾, 岩田紘治⁽²⁾: 簡易口唇閉鎖力測定器を使用した成人健常者の口唇閉鎖力の検討および舌圧との関係, 日摂食嚥下リハ会誌 **11**(3), 224~225, 2007. (第 13 回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会 学術大会, さいたま市) (1)国立病院機構村山医療センター・リハビリテーション科,(2)利定会大久野病院・リハビリテーション科
2. 熊澤海道, 矢崎秀昭⁽¹⁾, 井上敬介⁽²⁾, 古澤成博: 複製義歯を用いた咬座印象法による上顎義歯の作製, 歯科学報 **107**(2), 233, 2007. (第 283 回東京歯科大学学会(例会), 千葉市) (1)東京都,(2)愛知県
3. 零田義和, 梅安秀樹⁽¹⁾, 古澤成博: 咬合の再構築を行った症例, 歯科学報 **107**(2), 233, 2007. (第 283 回東京歯科大学学会(例会), 千葉市) (1)北海道
4. 加藤友章, 平井基之⁽¹⁾, 古澤成博: チェックバイトの理解を深めた一症例, 歯科学報 **107**(2), 234, 2007. (第 283 回東京歯科大学学会(例会), 千葉市) (1)東京都
5. 大迫美穂, 関根珠里亜, 根本詩子, 早川裕記, 古澤成博: マルチ周波数処理 Computed Radiography による頭部エックス線規格写真の画質変化, 歯科学報 **107**(2), 237, 2007. (第 283 回東京歯科大学学会(例会), 千葉市)
6. 高橋俊之⁽¹⁾, 角田正健⁽¹⁾, 石井拓男⁽²⁾, 一戸達也⁽³⁾, 亀山敦史⁽⁴⁾, 古澤成博, 柿澤 卓⁽⁵⁾, 外木守雄⁽⁶⁾, 岡崎雄一郎⁽⁶⁾, 山根源之⁽⁶⁾: 東京歯科大学歯科医師臨床研修における初期研修の検討, 歯科学報 **107**(4), 455, 2007. (第 284 回東京歯科大学学会(総会), 千葉市) (1)千病・総合診療科,(2)社会歯,(3)歯麻,(4)保存修復,(5)口健臨・口外,(6)市病・オーラルメディスン
7. 細川壮平, 関根珠里亜, 根本詩子, 早川裕記, 古澤成博: 簡易口唇閉鎖力測定器を使用した成人健常者の口唇閉鎖力の検討, 歯科学報 **107**(4), 461, 2007. (第 284 回東京歯科大学学会(総会), 千葉市)
8. 上島文江⁽¹⁾, 森山貴史⁽²⁾, 松本信哉⁽²⁾, 古澤成博, 槇石武美⁽²⁾: 糖尿病患者に歯周治療を行った一症例, 歯科学報 **107**(4), 462, 2007. (第 284 回東京歯科大学学会(総会), 千葉市) (1)水病・歯科衛生士部,(2)口健臨・保存

9. 益田仁美⁽¹⁾, 森山貴史⁽²⁾, 松本信哉⁽²⁾, 古澤成博, 槇石武美⁽²⁾: 歯ブラシ把持法の変更によりプラークコントロールが改善した一症例, 歯科学報 **107**(4), 463, 2007. (第 284 回東京歯科大学学会(総会), 千葉市) (1)水病・歯科衛生士部, (2)口健臨・保存

10. 小貫瑞穂, 細川壮平, 大迫美穂, 根本詩子, 関根珠里亜, 早川裕記, 菊池百美, 吉田 隆⁽¹⁾, 古澤成博: 歯根嚢胞と思われた角化嚢胞性歯原性腫瘍(旧称:歯原性角化嚢胞)の 1 症例, 日歯保存誌 **50**(1), 125, 2007. (日本歯科保存学会 2007 年度秋季学術大会(第 127 回), 岡山市) (1)口健臨・保存

1. 口腔健康臨床科学講座 9) 歯科放射線学分野

学会抄録

1. 海老原 環⁽¹⁾, 林 正樹⁽¹⁾, 宮崎晴代⁽¹⁾, 末石研二⁽¹⁾, 今井崇之⁽²⁾, 秋元善次⁽²⁾, 横山葉子⁽²⁾, 山 満, 高野正行⁽²⁾ : 上下顎同時移動手術を要した著しい骨格性下顎前突症・顔面非対称症例の 2 治験例, 日顎変形会誌 **17**(2), 167, 2007. (第 17 回日本顎変形症学会総会, 新潟市) (1)口健臨・矯正,(2)口健臨・口外
2. 相澤光博⁽¹⁾, 山本正紀⁽¹⁾, 山 満, 高野正行⁽²⁾, 柿澤 卓⁽²⁾, 西川慶一⁽¹⁾, 佐野 司⁽¹⁾, 村上伸一⁽³⁾ : 3 次元領域拡張法による X 線 CT 画像からの骨領域高精度自動抽出の試み, 歯放線 **47**(2), 98, 2007. (第 48 回日本歯科放射線学会総会・学術大会, さいたま市) (1)歯放,(2)口健臨・口外,(3)東京電機大・工
3. 相澤光博⁽¹⁾, 山本正紀⁽¹⁾, 山 満, 高野正行⁽²⁾, 柿澤 卓⁽²⁾, 西川慶一⁽³⁾, 佐野 司⁽³⁾, 村上伸一⁽⁴⁾ : PC 用 X 線 CT 骨 3 次元画像構成ソフトの開発, 歯放線 **47**(2), 98, 2007. (第 48 回日本歯科放射線学会総会・学術大会, さいたま市) (1)東歯大・水病・放射線科,(2)口健臨・口外,(3)歯放,(4)東京電機大・工
4. 朝波志穂⁽¹⁾, 大串圭太⁽¹⁾, 大坪有子⁽¹⁾, 宮尾 真理子⁽¹⁾, 半田 麻里子⁽¹⁾, 齋田 菜緒子⁽¹⁾, 笠原正貴⁽¹⁾, 福田謙一⁽¹⁾, 高北義彦⁽¹⁾, 山 満, 瀬田修一⁽²⁾, 秋元善次⁽²⁾, 横山葉子⁽²⁾, 高崎義人⁽²⁾, 高野正行⁽²⁾, 柿澤 卓⁽²⁾, 一戸達也⁽³⁾, 金子 譲⁽³⁾ : 1997 年 1 月～2007 年 6 月までの 10 年 6 ヶ月間における東京歯科大学水道橋病院での顎変形手術の臨床統計, 歯科学報 **107**(4), 454, 2007. (第 284 回東京歯科大学学会(総会), 千葉市) (1)口健臨・歯麻,(2)口健臨・口外,(3)歯麻
5. 松井 隆⁽¹⁾, 山村哲夫⁽¹⁾, 横山葉子⁽¹⁾, 高崎義人⁽¹⁾, 山 満, 高野正行⁽¹⁾, 仁科牧子⁽²⁾, 柿澤 卓⁽¹⁾ : スケーリング・ルートプレーニング後に発症した丹毒の 1 例, 歯科学報 **107**(4), 469, 2007. (第 284 回東京歯科大学学会(総会), 千葉市) (1)口健臨・口外,(2)水病・内科
6. 山 満, 和光 衛⁽¹⁾, 佐野 司⁽¹⁾, 柿澤 卓⁽²⁾, 松井 隆⁽²⁾ : 上顎歯肉に発生した口腔トリコモナス症の画像所見, 歯放線 **47**(3), 140, 2007. (日本歯科放射線学会 第 12 回臨床画像大会, 柏市) (1)歯放,(2)口健臨・口外

2. 眼 科

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

教授	ビッセン宮島弘子	多焦点眼内レンズ挿入後の視機能
助教	北村 奈恵	水晶体超音波乳化吸引術後の眼内炎症

2. 成果の概要

1) 多焦点眼内レンズ挿入後の視機能

多焦点眼内レンズが厚生労働省の承認を受け、白内障手術における普及が始まっている。屈折型および回折型の光学的特徴が、実際の視機能にどのように反映するか、モデル眼および実際の臨床症例で検討した。

高コントラストによる視力検査に加え、低、中、高周波数領域におけるコントラスト感度を測定した。これには、遠方コントラスト感度のみでなく近方コントラスト感度も追加し、片眼ずつ、および両眼における状態を検討した。また、眼内レンズの位置がコントラスト感度へ及ぼす影響を検査する目的で、前眼部解析装置により、回折型眼内レンズ位置を観察し、瞳孔中心から眼内レンズ中心の距離、偏位方向を観察した。通常、嚢内固定された眼内レンズにおいては、偏位は0.2mmで、この範囲においては、偏位方向にかかわらず、コントラスト感度への影響は認められなかった。今後、屈折型多焦点レンズにおいても検討予定である。

2) 水晶体超音波乳化吸引術後の眼内炎症

水晶体超音波乳化吸引術後の眼内炎症は軽微で、1週間でほとんど認められなくなる。通常の経過に比べ、時に感染を疑わせるような強い炎症所見を呈する toxic anterior segment syndrome (TASS) が海外で報告され、この原因と予防が注目されている。当院における、白内障手術後の炎症所見に注目し、TASS が疑われる症例の背景、手術手技などについて検討した。1年間約 600 例の手術眼において、3 眼のみこの TASS が疑われる症例があった。どの例も、翌日にフィブリン析出を伴う前房内炎症を認めた。ステロイド点眼にて翌日には軽快した。器具の滅菌、灌流液について retrospective にエンドトキシンの可能性を考慮しながら、原因となりうるものを調査した。残念ながら、明らかな因果関係を認める原因はなかったが、今後、術後炎症の評価について、さらに検討していきたい。

3. 研究活動の特記すべき事項

オーガナイザー

オーガナイザー	年月日	講演演題	学会・研究会名	開催地
Bissen-Miyajima Hiroko	2007. 4. 29	Intraocular Surgery Multifocal IOLs	American Society of Cataract and Refractive Surgery	San Diego, U.S.A.
Bissen-Miyajima Hiroko	2007. 6. 10	New techniques in cataract surgery	European Society of Ophthalmology	Austria, Vienna

オーガナイザー	年月日	講演演題	学会・研究会名	開催地
ビッセン宮島弘子	2007. 6. 30	Refractive Lens Surgery	第22回総会日本眼内レンズ屈折手術学会総会	松山市
ビッセン宮島弘子	2007. 10. 12	多焦点眼内レンズを知りつくそう-わかりやすい基礎から応用編-	第61回日本臨床眼科学会総会	京都市
ビッセン宮島弘子	2007. 10. 14	新しい眼内レンズの評価	第61回日本臨床眼科学会総会	京都市
ビッセン宮島弘子	2008. 2. 1	海外の学会からみた日本の屈折矯正手術	第31回日本眼科手術学会総会	横浜市

シンポジスト

シンポジスト	年月日	演題	学会・研究会名	開催地
ビッセン宮島弘子	2007. 6. 30	多焦点 IOL、Accommodative IOL 総論	第22回日本眼内レンズ屈折手術学会総会	松山市

学会招待講演

講演者	年月日	演題	学会・研究会名	開催地
ビッセン宮島弘子	2007. 5. 27	最新の白内障手術	四国 eye ランドセミナー	高松市
ビッセン宮島弘子	2007. 8. 25	多焦点眼内レンズ最新情報	第91回南大阪眼科勉強会プログラム	大阪市
Bissen-Miyajima Hiroko	2007. 9. 13	Preliminary results with the HOYA pre loaded system: science, clinical experience and technique.	Refractive on line	Milan, Italy
ビッセン宮島弘子	2007. 12. 15	最新の白内障手術と IOL	埼玉眼科フォーラム	さいたま市
ビッセン宮島弘子	2008. 3. 22	多焦点レンズ、How to & How much	第1回 ODAIBA Cataract Refractive Forum	東京

4. 教育講演等教育に関する業績、活動

教育講演等

講演者	年月日	演題	学会・研究会名	開催地
ビッセン宮島弘子	2007. 5. 22	水晶体超音波乳化吸引術と眼内レンズ	慶應義塾大学眼科学教室 後期研修医教育講演	東京
ビッセン宮島弘子	2007. 6. 29	進化する角膜屈折矯正手術	第22回日本眼内レンズ屈折手術学会総会	松山市
ビッセン宮島弘子	2007. 6. 30	多焦点眼内レンズの新しい時代を迎えて	第22回日本眼内レンズ屈折手術学会総会	松山市

講演者	年月日	演題	学会・研究会名	開催地
ビッセン宮島弘子	2007. 7. 29	屈折矯正手術の現状	眼科診療アップデートセミナー	東京
ビッセン宮島弘子	2007. 9. 1	白内障手術アップデート	北陸オフサルミックフォーラム	金沢市

論 文

1. 大木伸一, ビッセン宮島弘子, 中村邦彦 : Wavefront-guided LASIK による乱視矯正, 臨眼 **61**(6), 1021~1024, 2007. 原著 A01-0791-2
2. 北村奈恵, ビッセン宮島弘子, 中村邦彦 : ウルtrasリーブを用いた水晶体超音波乳化吸引術における灌流量とリーク量, 臨眼 **61**(6), 1025~1027, 2007. 原著 A01-0791-2
3. ビッセン宮島弘子, 林研⁽¹⁾, 平容子⁽²⁾ : アクリソフ Apodized 回折型多焦点眼内レンズと単焦点眼内レンズ挿入成績の比較, あたらしい眼科 **24**(8), 1099~1103, 2007. 原著 A01-0791-2 (1)福岡県,(2)埼玉県
4. 平容子⁽¹⁾, ビッセン宮島弘子, 小野政祐⁽¹⁾ : アクリソフ Apodized 回折型多焦点眼内レンズ挿入例におけるアンケート調査による視機能評価, あたらしい眼科 **24**(8), 1105~1108, 2007. 原著 A01-0791-2 (1)埼玉県
5. 大木伸一, ビッセン宮島弘子, 中村邦彦 : 多焦点眼内レンズの焦点深度, 日本視能訓練士協会誌 **36**, 81~84, 2007. 原著 A01-0791-2

解 説

1. ビッセン宮島弘子 : 屈折矯正手術のわかりやすい適応 矯正度数や角膜厚、どうやって術式を選択しているのか?, Ophthalmics MAGAZINE **5**, 14~15, 2007. A01-0791-2
2. ビッセン宮島弘子 : 多様に、そして論議を呼びながら屈折矯正手術市場は拡大中, OCULAR SURGERY NEWS **7**, 1, 2007. A01-0791-2
3. ビッセン宮島弘子 : 術後検査 ABC, 3i 角膜診療 **4**, 8, 2007. A01-0791-2
4. ビッセン宮島弘子 : 患者さんからの質問にはこう答えよう!白内障治療のベーシックラインと最新情報, 眼科ケア **9**(12), 9, 2007. A01-0791-2

単行図書

1. ビッセン宮島弘子(a),(b): 著分担 :白内障手術-update (a)白内障手術-update 3~5 頁,(b)最新技術による白内障手術例 6~7 頁, エルゼビア・ジャパン, 東京, 2007. A01-0791-2
2. ビッセン宮島弘子(a): 著分担 :今日の眼疾患治療指針(第2版)(a)屈折矯正手術 780~782 頁, 医学書院, 東京, 2007. A01-0791-2

学会抄録

1. Bissen-Miyajima,H., Taira,Y.⁽¹⁾, Yoshino,M., Ohashi,Y.⁽²⁾ : Perioperative Changes of Bacterial Flora in the Conjunctival Sac and Contamination of the Ocular Surface, ASCRS, 83, 2007. (American Society of Cataract and Refractive Surgery 2007, U.S.A., San Diego) A01-0791-2 脳科学研 (1)Saitama Prefecture,(2)Dept. of Ophthalmology, Ehime Univ

2. Yoshino,M., Bissen-Miyajima,H. : Experimental Analysis of Residual Ophthalmic Viscosurgical Devices After Microcoaxial Phacoemulsification with OZil Handpiece, ASCRS, 131, 2007. (American Society of Cataract and Refractive Surgery 2007, U.S.A., San Diego) A01-0791-2
3. Nakamura,K., Bissen-Miyajima,H., Tokumitsu,K. : Visual Quality of Tecnis Multifocal IOLs, ASCRS, 140, 2007. (American Society of Cataract and Refractive Surgery 2007, U.S.A., San Diego) A01-0791-2
4. Bissen-Miyajima,H., Taira,Y.⁽¹⁾, Yoshino,M., Ohashi,Y.⁽²⁾ : What is the State of Microbial Contamination of the Ocular Surface During Cataract Surgery?, ASCRS, 158, 2007. (American Society of Cataract and Refractive Surgery 2007, U.S.A., San Diego) A01-0791-2 脳科学研 (1)Saitama Prefecture,(2)Dept. of Ophthalmology, Ehime Univ
5. Bissen-Miyajima,H. : New techniques in cataract surgery, SOE, 28, 2007. (European Society of Ophthalmology 2007, Austria , Vienna) A01-0791-2
6. 中村邦彦, ビッセン宮島弘子, 北村奈恵, 大木伸一, 上野 里都子 : 多焦点眼内レンズ挿入眼の中間視力, 屈折手術学会抄録集, 30, 2007. (第 22 回日本眼内レンズ屈折手術学会総会, 松山市) A01-0791-2
7. 吉野真未, ビッセン宮島弘子, 上野 里都子, 大木伸一, 北村奈恵 : 長眼軸長眼における回折型多焦点眼内レンズ挿入後の成績, 屈折手術学会抄録集, 30, 2007. (第 22 回日本眼内レンズ屈折手術学会総会, 松山市) A01-0791-2
8. 大木伸一, ビッセン宮島弘子, 中村邦彦, 北村奈恵, 上野里都子 : Wavefront guided LASIK における Iris Registration の認証率, 屈折手術学会抄録集, 56, 2007. (第 22 回日本眼内レンズ屈折手術学会総会, 松山市) A01-0791-2
9. ビッセン宮島弘子 : 進化する角膜屈折矯正手術, 屈折手術学会抄録集, 66, 2007. (第 22 回日本眼内レンズ屈折手術学会総会, 松山市) A01-0791-2
10. ビッセン宮島弘子 : Bimanual と Coaxial 2007 年のトレンドは?, 屈折手術学会抄録集, 83, 2007. (第 22 回日本眼内レンズ屈折手術学会総会, 松山市) A01-0791-2
11. ビッセン宮島弘子 : 多焦点 IOL,Accommodative IOL 総論, 屈折手術学会抄録集, 86, 2007. (第 22 回日本眼内レンズ屈折手術学会総会, 松山市) A01-0791-2
12. Bissen-Miyajima,H. : Innovations in Cataract Surgery, SOE, 2007. (European Society of Ophthalmology 2007, Austria , Vienna) A01-0791-2
13. ビッセン宮島弘子 : 新たな非球面レンズアクリソフ IQ のヒミツ, 屈折手術学会抄録集, 112, 2007. (第 22 回日本眼内レンズ屈折手術学会総会, 松山市) A01-0791-2
14. ビッセン宮島弘子 : 多焦点眼内レンズの新しい時代を迎えて, 屈折手術学会抄録集, 122, 2007. (第 22 回日本眼内レンズ屈折手術学会総会, 松山市) A01-0791-2
15. Bissen-Miyajima,H., Yoshino,M., Nakamura,K., Ooki,S. : Diffractive Multifocal IOL for Eyes with Long Axial Length, ESCRS, 18, 2007. (25th European Society of Cataract and Refractive Surgeons, Sweden, Stockholm) A01-0791-2

16. Bissen-Miyajima,H., Taira,Y.⁽¹⁾, Yoshino,M., Ohashi,Y.⁽²⁾ : What is the state of microbial Contamination of the ocular surface during cataract surgery?, ESCRS, 291, 2007. (25th European Society of Cataract and Refractive Surgeons, Sweden, Stockholm) A01-0791-2 (1)Saitama Prefecture,(2)Dept. of Ophthalmology, Ehime Univ
17. ビッセン宮島弘子, 大木伸一, 上野 里都子 : 回折型多焦点眼内レンズにおける術前角膜乱視と術後裸眼視力, 臨眼抄録集, 26, 2007. (第 61 回日本臨床眼科学会, 京都市) A01-0791-2
18. 吉野真未, ビッセン宮島弘子, 平 容子⁽¹⁾, 小野政祐⁽¹⁾ : 回折型多焦点眼内レンズ挿入後の quality of vision, 臨眼抄録集, 26, 2007. (第 61 回日本臨床眼科学会, 京都市) A01-0791-2 (1)埼玉県
19. 中村邦彦, ビッセン宮島弘子, 大木伸一, 上野 里都子 : アクリル製屈折型多焦点眼内レンズ ReZoom 挿入眼の術後視機能, 臨眼抄録集, 26, 2007. (第 61 回日本臨床眼科学会, 京都市) A01-0791-2
20. ビッセン宮島弘子, 林研⁽¹⁾, 平 容子⁽²⁾ : アクリソフ・レストア挿入後の裸眼視力と角膜乱視, 眼科手術, 32, 2008. (第 31 回日本眼科手術学会総会, 横浜市) A01-0791-2 (1)福岡県,(2)埼玉県
21. 中村邦彦, ビッセン宮島弘子, 吉野真未, 北村奈恵, 大木伸一, 上野 里都子 : 多焦点眼内レンズ挿入眼の LASIK による屈折誤差矯正, 眼科手術, 33, 2008. (第 31 回日本眼科手術学会総会, 横浜市) A01-0791-2
22. 吉野真未, ビッセン宮島弘子, 平 容子⁽¹⁾, 大橋裕一⁽²⁾ : 白内障手術中の眼表面再汚染の検討:粘着シートの汚染状況との関連, 眼科手術, 40, 2008. (第 31 回日本眼科手術学会総会, 横浜市) (1)埼玉県,(2)愛媛大・眼

3. 内 科

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

准教授 仁科牧子 全身と口腔機能との関連について

2. 成果の概要

微生物学的研究から口腔内の細菌と動脈硬化や誤嚥性肺炎との関連が指摘されている。しかし口腔機能と全身機能の関連については、歯科領域からいろいろな知見がだされているが、医科領域からの検討はあまりなされていない。全人的医療の立場から考えると中枢神経の影響が嚥下、咀嚼などの機能に及ぶのと同様、口腔の状態が中枢神経系から、運動神経系、免疫系、自律神経系、内分泌系などを介し全身の状態に影響を及ぼすことが考えられるが、それを示すエビデンスはまだ十分ではない。全身状態のどのようなところに咬合、嚥下、咀嚼などの機能異常が強く関係するのかということなど、関連性を明らかにしていくにはより他覚的根拠を積み重ねていく必要がある。今後、医科と歯科との連携をはかるためにもエビデンスを明らかにすることは重要だと思われる。現在はさまざまな症例を臨床的に広く検討中である。

3. 教育講演等教育に関する業績、活動

教育講演

講演者（著者）	年月日	演題（タイトル）	学会・研究会名（発行所）	開催地
仁科 牧子	2007. 11. 24	認定研修セミナー 「不定愁訴とは」	日本全身咬合学会	浦添市

学会抄録

1. 仁科牧子：不定愁訴とは?, 第17回日本全身咬合学会学術大会抄録集, 44, 2007. (第17回日本全身咬合学会学術大会, 浦添市)